

**認知症高齢者の
徘徊行方不明者ゼロ作戦の
構築に向けた調査研究事業**

平成23年3月

NPOシルバー総合研究所

はじめに

北海道釧路市での平成6年の活動が発端となり、『認知症徘徊 SOS ネットワーク』（以下、ネットワーク）が全国の多くの自治体で立ち上がりました。現在までの経過は、ネットワークの中心となる行政担当者の異動や平成の大合併による市町村合併などにより、十分に機能を発揮することなく形骸化したネットワークも少なくなく、認知症高齢者の行方不明者は後を絶ちません。

昨年、当法人で実施した全国の自治体を対象とした実態調査（回収率45%）では、ネットワークの整備状況は3割程度であり、そのうち3割がネットワークはあってもほとんど機能していない、という結果であり、「ネットワークはあっても機能していない地域」の多いことが明らかになりました。

今年2月、認知症高齢者の数は、「全国でおよそ270万人」であり、今までの推定より1.3倍にも上るという実態が報告されました。認知症高齢者の増加や高齢化率の増加、都市部では老朽化した団地に住む住民の高齢化が問題として取り上げられています。今後さらに、認知症高齢者を地域で見守り支援するネットワークが重要になってきます。

当法人では、これまでネットワークに関連した研究事業として、ネットワークのモデル構築、事前登録制度と先進事例収集、地域連携による広域化に関する実態調査などに取り組んでまいりました。ネットワークの構築には、地域の特性や実情に応じたシステムが必要であり、ネットワークが稼動し行方不明者を早期発見するための検索情報の伝達、実働する捜索隊の態勢整備等の課題、そして、先進的に取り組んでいる地域から全国に向けた情報発信の重要性を強く認識いたしました。

ネットワークの関係機関、協力機関を中心とした、捜索に協力し、探す態勢づくりが必要です。そのためには、ネットワークを構築し、推進していくときに、中心となる機関がどのような立場で取り組んでいくのかということが重要であると考えます。

現在、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」をキーワードに、認知症を正しく理解していく取り組みが全国の自治体に広がってきています。また、メディアを通じた情報も増えてきています。

ネットワークを推進し、ネットワークを育てていくには、行方不明時の捜索態勢と認知症の理解、そして地域での見守り体制をどのようにつなげていくのかが今後の課題であり、一刻も早く探すためのネットワーク機能が全国に広がっていくことを強く期待いたします。

最後になりますが、本事業に業務ご多忙の中ご尽力賜りました皆様に、衷心より御礼申し上げます。

平成23年3月

NPOシルバー総合研究所

検討委員会体制

(敬称略)

	氏 名	所 属
委 員 長	永 田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター 研究部副部長
委 員	池 田 武 俊	大牟田市 保健福祉部 長寿社会推進課 課長
委 員	稲 垣 康 次	富士宮市 保健福祉部総合相談課 主任主査
委 員	岩 渕 雅 子	釧路地区障害老人を支える会 たんぽぽの会 代表
委 員	佐 藤 高 彰	N H K 生活・食料番組部 部長
委 員	中 山 茂 樹	財団法人 高齢者住宅財団 常務理事
委 員	森 上 淑 美	一般社団法人 日本介護支援専門員協会 副会長

事 務 局	渡 辺 亮 市	N P O シルバー総合研究所
事 務 局	鈴 木 伸 幸	N P O シルバー総合研究所
事 務 局	諏訪免 典 子	N P O シルバー総合研究所

目 次

要 旨	4
1. 事業概要	9
1) 背景と目的	10
2) 事業のプロセス	10
2. 事業の実施	12
(1)「認知症徘徊行方不明者ゼロ作戦推進フォーラム」の開催	
1) 福岡県大牟田市	13
2) 静岡県	18
3) 兵庫県川西市	28
(2) 先進自治体調査・取材	33
(3) セミナー用映像教材の作成	37
(4) ホームページの充実	34
3. 今後の課題・提言	35
4. 考 察	40
参考資料	46
1. 北海道釧路市の事例	
1)「徘徊から希望を取り戻そう！～釧路地域 SOS ネットワークの 15 年を振り返って～」	47
2) 徘徊を繰り返し保護された事例	49
2. 静岡県富士宮市の平成 22 度の取組み	51
3. 大牟田市セミナー資料	56
4. DVD メニューと使用方法	60



要

旨



○はじめに

地域で取り組むべき認知症施策の一つである「認知症高齢者 SOS ネットワーク」は全国の自治体で地域の特性を活かしながら取り組みが進められているところである。

しかしながら、昨年度（21 年度）、当 NPO で実施した全国自治体の徘徊行方不明者実態調査によると、SOS ネットワークの整備および稼働状況は、ネットワークが形骸化している現状と地域格差の大きさが明らかとなった。現在、行方不明時の対応や搜索を把握している警察と自治体の連携や広域化ネットワークの地域間連携のシステム構築が早急に求められる。

本事業では、認知症高齢者の『行方不明者ゼロ』を目指して、地域の実情に応じた効果的な SOS ネットワーク構築について検討を行い、認知症高齢者 SOS ネットワークの拡充にむけた先進自治体での取り組みを調査・取材し、全国自治体への普及として、「認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築」に向けたセミナーを開催していくことを目的とする。

1. 事業の実施

（1）全国 3 か所での「認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築」に向けたセミナーの開催

①福岡県大牟田市

＜目的＞ 22 年 10 月 24 日に行われた、大牟田市徘徊模擬訓練の反省会とネットワークの広域化を考えることを目的に開催。

＜総評＞ 福岡県大牟田市では、徘徊模擬訓練反省会は学校区ごとに住民が参加、それぞれの模擬訓練の様子を発表したが、すでに 7 回目を迎える大牟田市でも、声掛けに関しては、まだまだであるなどの意見が出ていたが、こうしてネットワークのみなさんが顔を合わせ、次につなげていくことが大切であることがわかった。

今回このセミナーでは、介護サービス事業所で徘徊 SOS ネットワークにつなげていくための提案もなされた。行方不明になり自力搜索で 30 分経過しても見つからない場合はネットワークを活用しようというもので、早期発見には大切な考え方である。

また、広域化に関しては、まずそれぞれの市町村でのネットワークの確立と、近隣どうしの連携が必要であり、その主たる連絡に関しては、行政が担っていかなければならないとの意見が出ていた。

②静岡県静岡市

＜目的＞ 静岡県と富士宮市の協力により、県下市町に対して認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの理解と必要性ならびに、静岡県下の SOS ネットワークの活動状況を知る。

＜総評＞ 静岡でのセミナーは静岡県の協力のもと参加者の募集を行った。今回のセミナーを開催するにあたり、事前アンケートと事後アンケートを行った。その結果、セミナーへ参加することにより、「周りの認知症の人に対する意識」、「認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性」「ネットワークへ関わろうとする意識」が高まった。また、自分の市町にネットワークが「あるかないか、わからない」と約3割が答えていることから、こういったセミナーを開催し、県下のどの地域にはネットワークがあり、どこにはないのかといった、現状の認識を共有する必要がある。こういった情報の共有が広域化につながっていくと考えられる。

今回のセミナー開催時に行った事後アンケートの職種別では、下記のように、認知症の人の行方不明について、①「現在、心配な人が身近にいる」の回答で行政職員と地域包括支援センター職員では大きな認識の違いがあった。このことがネットワークの整備がなかなか進まないことに関係しているのではないかと考えられる。

そして、参加者のほとんどの人が「徘徊と思われる人を見かけたとき」で、①「とにかく声をかけてみる」と答えている、このことは大切なことではあるが、声のかけ方、対応の仕方等が適切であるかなどの確認のためにも、徘徊模擬訓練により、ネットワークの検証と共に、対応方法なども確認していく必要があると考えられる。

③兵庫県川西市

＜目的＞ 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性とこのネットワークの意味について考える。

＜総評＞ 現在、川西市では地域包括支援センターを中心にした SOS ネットワークを目指しています。地域包括支援センターは地域の認知症の人と家族を、ケアマネジャー、介護サービス事業所、民生委員、福祉委員と連携を取りながらサポート体制を進めている。今回のセミナー参加者も介護サービス事業所、民生委員、福祉委員が多数になっている。これらの方々に認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性と、このネットワークへの参加意識を高める機会となった。

ここでも、「徘徊と思われる人を見かけたとき」の問いでは、81%が「とにかく声をかけてみる」と答えていることから、徘徊模擬訓練を通して、声掛けの仕方などの対応方法を確認していく必要があると考えられる。

（２）先進自治体での取り組みを調査・取材

＜目的＞ 全国の認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの取り組みを調査、取材しセミナーおよび映像教材に活用する

①福岡県大牟田市徘徊模擬訓練

大牟田市では今年で7回目の徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練を実施している。ここでは、各学校区での徘徊役を立てての訓練と、市全体での徘徊役を立てての訓練を行っている。今回は

市全体での訓練の様態を取材、主催者のインタビューを交えて、訓練の流れとポイントを映像教材とした。

- ・徘徊模擬訓練が目的ではなく、この訓練を通してネットワークに情報が正確に素早く流れているか、それぞれの対応はどうなのか、徘徊役への地域住民の対応は適切か、などを検証しネットワークを育てていくことが大切である。

②兵庫県川西市地域包括支援センターの取り組み

兵庫県川西市では、地域包括支援センターが中心になり、ネットワーク構築を進めている。この地域包括支援センターへのインタビューで以下のことが解った。

地域包括支援センターは

- ・地域の認知症の人と家族の状況を把握しやすい
- ・地域の支援者、民生委員、福祉委員などの活動状況の把握や連携、協力体制を取りやすい
- ・ケアマネジャーや介護サービス事業所などとの連携が図りやすい
- ・行方不明時の情報収集、近隣の搜索活動などを把握しやすい、など地域包括支援センターは、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークにおいて、地域の様々な人々を有効に結びつける大切な役割を担っていることがわかった。

（３）セミナー用映像教材の作成

平成 18 年度に作成した、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの映像をベースとして、今回新たに取材、撮影した、福岡県大牟田市模擬徘徊訓練と兵庫県川西市地域包括支援センターの取り組みを追加してセミナーでも使いやすいように再構成を行った。

（４）ホームページの充実

- 1) 22 年度報告書をホームページ上で公開
- 2) 映像教材の更新

18 年度制作の映像教材に、大牟田市での模擬徘徊訓練の様態を追加して、セミナー等でも活用できるように、改訂を行った。

3. 考 察

認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦セミナーを開催して、セミナーの開催にあたっては

- ・認知症見守り SOS ネットワークの必要性（映像教材の活用）
- ・地域の行方不明者の現状報告
- ・認知症の人と家族の思い
- ・地域の SOS ネットワークの現状

上記の事柄をセミナーに落とし込み、開催しました。

セミナーを開催することで

- ・身近にいる認知症の人に対する意識の変化
- ・SOS ネットワークの必要性和ネットワークへの参加意識の向上
- ・SOS ネットワークで、さまざまな職種や人が関わることの必要性和意義
- ・地域の SOS ネットワークの現状の把握と広域化への対応

以上のことを参加者に意義づけることができました。

また、今回のセミナー開催で、地域包括センターによる地道な見守り活動も報告されており、これらの活動をつなげ、より大きなネットワークにしていくためにも、セミナーなどの共通認識を持つ場が必要です。

そして、この SOS ネットワークは今まで警察が中心に搜索を行っていました。行方不明者が出た場合、基本的には警察が中心に搜索を行うわけですが、認知症の人にはよりきめ細かな対応が必要になってきます。そのためにも行政による

- ・搜索本部の設置
- ・搜索隊の編成

が必要になってきます。

これにより

- ・搜索情報の整理
- が可能になります

また、発見された場合の認知症の人と家族のフォローを地域包括支援センターと共に行っていくためにも搜索状況の把握は大切です。

つまり、警察を中心に SOS ネットワーク構成団体の協力のもと搜索を行う従来の考え方に、積極的に搜索活動を行う、行政を中心にした搜索本部と搜索隊の 2 本柱が必要になってきます(図 3)。

このような動きにすることで、役割の明確化ができ、行政による近隣の市町村との連携も取りやすくなり広域化につなげることができるようになると考えられます。

そして今回のセミナー開催と取材で、地域包括支援センターの役割が大切なことも解りました、地域包括支援センターでは

- ・認知症の人の日常での支援の状況
- ・ケアマネジャーの情報、介護サービス事業所での状況
- ・地域の民生委員、福祉委員やボランティア団体の活動状況

これらを把握しやすい立場にあり、情報と人材を有効に結びつけることにより、日常の見守り体制から、いざという時の搜索協力者まで可能になります。

静岡セミナーではすでに地域での見守りを始めている所もあり、この、地域での見守り体制を市町村のネットワークにつなげていくことが大切です

また、今回の大牟田市でのセミナーで介護サービス事業所での徘徊行方不明の対応に関してのガイドラインが出されました、事業所でもガイドラインにそって行動することにより、迅速に対応できるようになると考えられます。

1

事業概要



1. 事業概要

(1) 背景と目的

市町村で取り組むべき認知症施策の一つである「認知症高齢者 SOS ネットワーク」は全国の自治体で地域の特性を活かしながら取り組みが進められているところである。

しかしながら、昨年度（21 年度）実施した全国自治体の徘徊行方不明者実態調査によると、SOS ネットワークの整備および稼働状況は、ネットワークが形骸化している現状と地域格差の大きさが明らかとなった。

現在、行方不明時の対応の実態や搜索を把握している、警察と自治体の連携や広域化ネットワークの地域間連携のシステム構築が早急に求められる。

本事業の目的は、認知症高齢者の『行方不明ゼロ』を目指して、地域の実情に応じた効果的な SOS ネットワークの拡充にむけた先進自治体での取り組みを調査・取材し、セミナー用の映像教材の作成と、全国自治体へ「認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築」に向けたセミナーを開催していくことを目的としている。

(2) 事業のプロセス

本事業では、検討委員会を設置し、委員会を 3 回開催した（表 1）

1) 先進自治体の調査・取材の実施

委員会での討議により、全国 2 か所に取材を行い、映像教材のなかで紹介していくことになった。

＜取材先＞

- ・福岡県大牟田市
- ・兵庫県川西市

2) 全国 4 か所での「認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築」に向けたセミナーの開催

委員会の討議により、セミナー開催は当初全国 4 か所であったが、絞り込みを行い全国 3 か所の地域を対象として、認知症高齢者行方不明ゼロ作戦のセミナーを開催した。

セミナーでは、地域ごとに目的を考えて内容の検討を行った。

＜開催地＞

- ・福岡県大牟田市

- ・静岡県静岡市
- ・兵庫県川西市

3) セミナー用映像教材の作成

委員会討議により、18年度制作の映像に今回取材した福岡県大牟田市、兵庫県川西市を加え、セミナー用に使用できるような映像教材を作成した。

4) ホームページの充実

平成20年度事業で構築した、徘徊高齢者行方不明ゼロホームページ「高齢者の見守り・SOSネットワークを築こう！」のコンテンツの充実化を行った。

(URL:<http://www.silver-soken.com/sos-net/index.html>)

- ・22年度報告書の掲載
- ・映像資料の更新

表1 委員会の開催

	日 程	議事内容
第一回	平成22年9月4日	1. 研究趣旨および事業概要説明 2. 先進自治体調査・取材(全国2カ所)の選出と調査取材内容 3. セミナー全国4カ所の開催要項(実施地域)と内容及び教材に関して
第二回	平成22年9月29日	1. 事業の進捗状況報告 2. 先進自治体の調査・取材の進め方 3. セミナー開催の進め方
第三回	平成23年2月13日	1. セミナー実施報告 2. ホームページ改訂に関して 3. 映像教材に関して 4. 報告書に関して

2 事業の実施

2. 事業の実施

(1) 「認知症徘徊行方不明者ゼロ作戦推進フォーラム」の開催

(1) 福岡県大牟田市（平成 22 年 10 月 24 日）

＜会場＞ オームタガーデンホテル

＜目的＞ 22 年 10 月 24 日に行われた、大牟田市徘徊模擬訓練の反省会とネットワークの広域化を考えることを目的に開催。

＜プログラム＞

認知症徘徊行方不明者ゼロ作戦推進フォーラム in 大牟田

- | | |
|-------------|--|
| 15：00～15：05 | 開会の挨拶 中原修作（大牟田市保健福祉部） |
| 15：05～15：40 | 大牟田市第 7 回徘徊模擬訓練実施報告
岡山隆二（大牟田市中央地域包括支援センター） |
| 15：40～16：55 | パネルディスカッション
テーマ「徘徊がノーでなく、安心して徘徊できるまちをつくろう！」
コーディネーター： 大谷るみ子（大牟田市認知症ケア研究会）
コメンテーター： 宮崎克彦（福岡県高齢者支援課）
安部博堂（公益財団法人さわやか福祉財団）
パネリスト： 井上泰人（大牟田市地域包括支援センター）
高田淳治（柳川市保健福祉部福祉課）
佐藤アキ（山鹿市市民福祉部介護保険課）
平良幸雄（徘徊模擬訓練羽山台校区事務局） |
| 16：55～17：00 | 閉会挨拶 渡辺亮市（特定非営利活動法人シルバー総合研究所） |
| 17：00 | 閉 会 |

＜参加者＞

150 名（内訳：行政、専門職 22 名・一般住民 127 名）



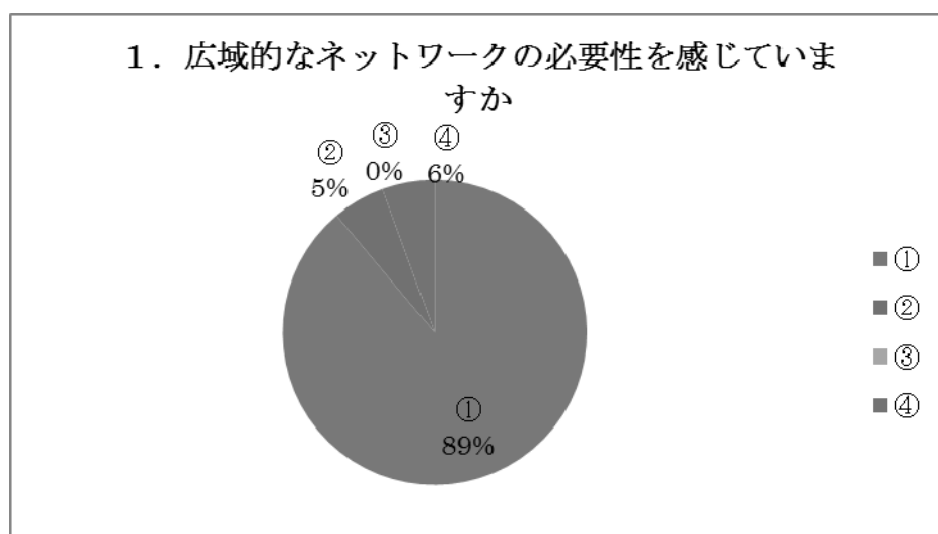
〔アンケート結果〕（行政、専門職にアンケートを実施）

広域的な徘徊・見守りネットワークについてお伺いします。

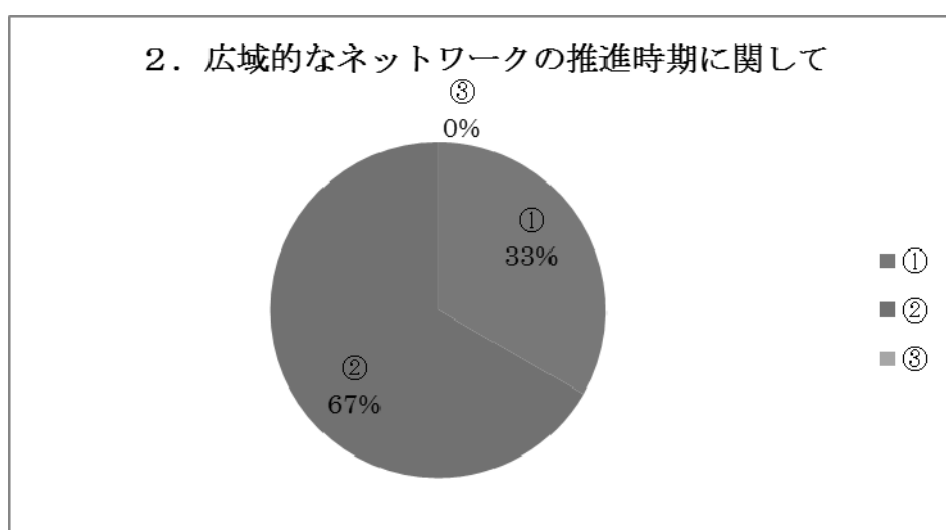
問 1. 広域的なネットワークの必要性を感じていますか？

- ① 大変感じている ② あまり感じていない ③ 感じていない ④ わからない

セミナー参加者の中でも、広域的なネットワークの必要性を「大変感じている」と答えた人が89%いることがわかる。



問 2. 広域的なネットワークの推進時期に関して

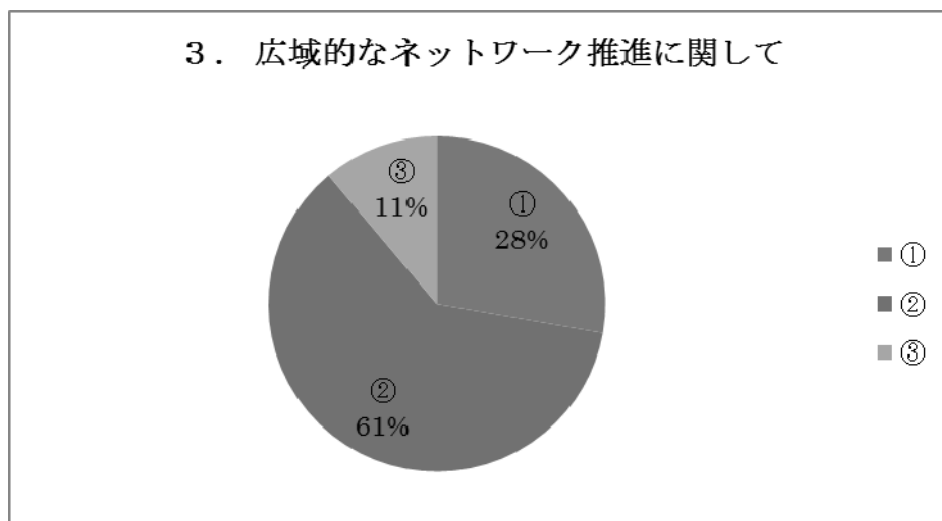


- ① 早急に進める必要がある ② 徐々に進める ③ まだ早い

1で「広域的なネットワークの必要性を感じている」人が89%であったが、推進に関しては「徐々に進める」が67%でこれは、広域的な連携はなかなか進めにくいためであると考えられる。

問 3. 広域的なネットワーク推進に関して

- ① 都道府県が中心で進める ② 市町村が中心で進める ③ 先進地区が中心で進める

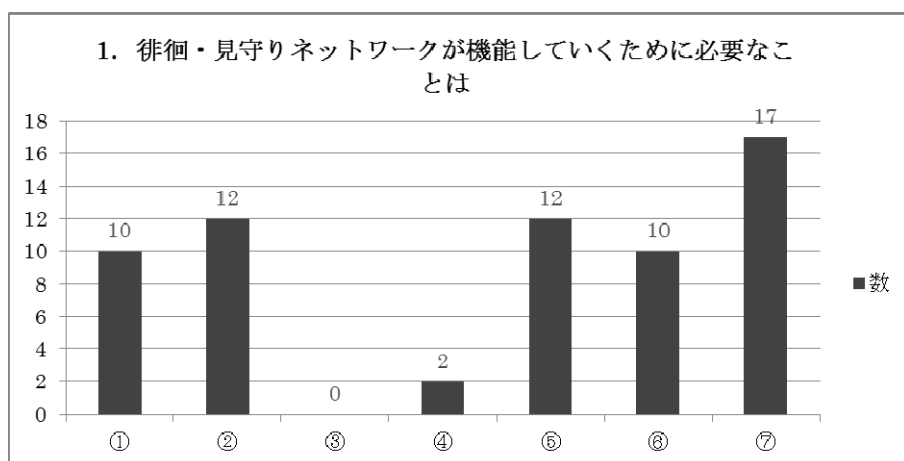


広域的なネットワークの推進に関しては、実際に動く②「市町村が中心で進める」が多い。

問 4. 徘徊・見守りネットワークの推進に関して

1. 徘徊・見守りネットワークが機能していくために必要なことは (複数回答可)

- ① 市町村担当部署が中心で動く
- ② 地域包括支援センターが中心で動く
- ③ 介護事業所が中心で動く
- ④ 民間の組織（NPO など）が中心で動く
- ⑤ 市町村担当部署と警察、介護事業者や民間組織との連携
- ⑥ 定期的な徘徊模擬訓練の開催
- ⑦ 地域住民へ認知症の理解を深める



この結果より、徘徊見守りネットワークが機能していくためには

- ・ 中心になる市町村担当部署
- ・ 地域包括支援センターの意識
- ・ ネットワーク関連団体との連携
- ・ ネットワークの周知と連絡網の確認、認知症の人への対応等などのための模擬訓練
- ・ 地域住民への認知症の理解を深める

以上のことが大切であるといえる。

<総 評>

福岡県大牟田市では、徘徊模擬訓練反省会は学校区ごとに住民が参加、それぞれの模擬訓練の様子を発表したが、すでに7回目を迎える大牟田市でも、声掛けに関しては、まだまだであるなどの意見が出ていたが、こうしてネットワークのみなさんが顔を合わせ、次につなげていくことが大切であることがわかった。

今回このセミナーでは、介護サービス事業所で徘徊 SOS ネットワークにつなげていくための提案もなされた。行方不明になり自力検索で30分経過しても見つからない場合はネットワークを活用しようというもので、早期発見には大切な考え方である。

また、広域化に関しては、まずそれぞれの市町村でのネットワークの確立と、近隣どうしの連携が必要であり、その主たる連絡に関しては、行政が担っていかなければならないとの意見が出ていた。

(2) 静岡県静岡市（平成 23 年 1 月 31 日）

<会場> 静岡県男女共同参画センターあざれあ大ホール

<目的> 静岡県と富士宮市の協力により、県下市町に対して、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの理解と必要性ならびに、静岡県下の SOS ネットワークの活動状況を知る。

<プログラム>

認知症徘徊行方不明者ゼロ作戦推進フォーラム in 静岡

- | | |
|-------------|---|
| 13：30～13：45 | 静岡県の認知症施策について
静岡県健康福祉部長寿政策局長 宮城島好史 |
| 13：45～14：00 | 認知症見守り・SOS ネットワークの必要性
NPO シルバー総合研究所 渡辺亮市 |
| 14：00～14：15 | 認知症行方不明者の現状と対応について
富士宮警察署生活安全課 生活安全係長 増田卓馬 |
| 14：15～14：30 | 徘徊される高齢者を介護される家族の思い
介護家族 高橋 操 |
| 14：30～14：45 | 休憩 |
| 14：45～15：30 | 認知症見守り・SOS ネットワーク先進事例の紹介
① 福岡県大牟田市のこれまでと現状について
福岡県大牟田市長寿社会推進課 課長 池田武俊
② 新潟県南魚沼市のこれまでと現状について
新潟県南魚沼市福祉保健部福祉課 参事 長谷川まり子 |
| 15：30～16：30 | パネルディスカッション
「安心して徘徊できるまちをつくるには？」
コーディネーター・永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター）
パネリスト ・池田武俊（福岡県大牟田市長寿社会推進課長）
・長谷川まり子（新潟県南魚沼市福祉課参事）
・中村美雪
（沼津市はら地域包括支援センター主任ケアマネ）
・正岡明美
（沼津市かなおか地域包括支援センター保健師） |
| 16：30～16：45 | 質疑応答およびアンケート記入 |
| 16：45 | 閉 会 |

<参加者> 300 名（参加者 280 名、関係者 20 名）

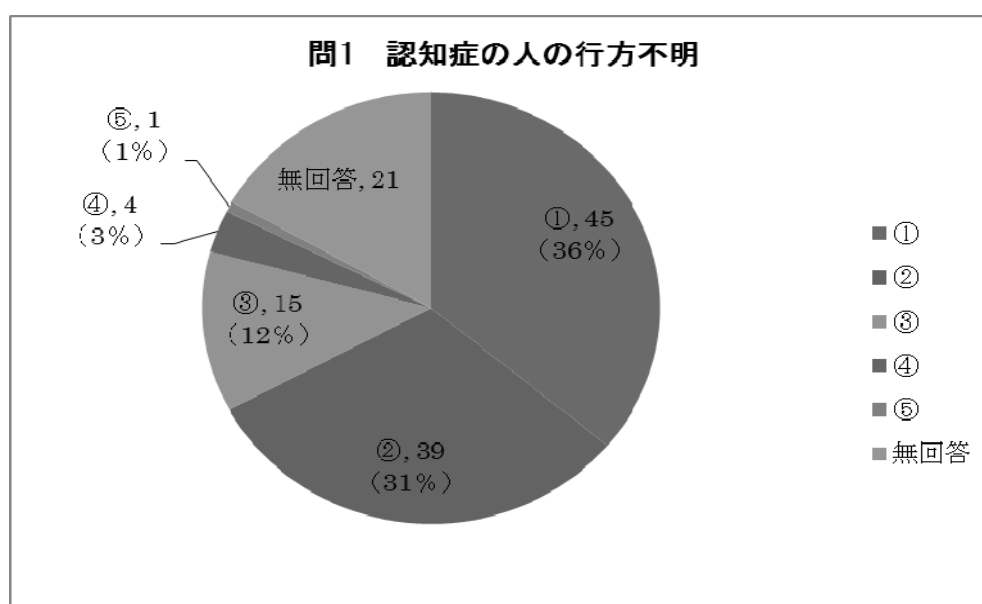


〔アンケート結果〕（静岡では事前アンケートを実施）

事前アンケート結果

問 1. 認知症の人の行方不明について

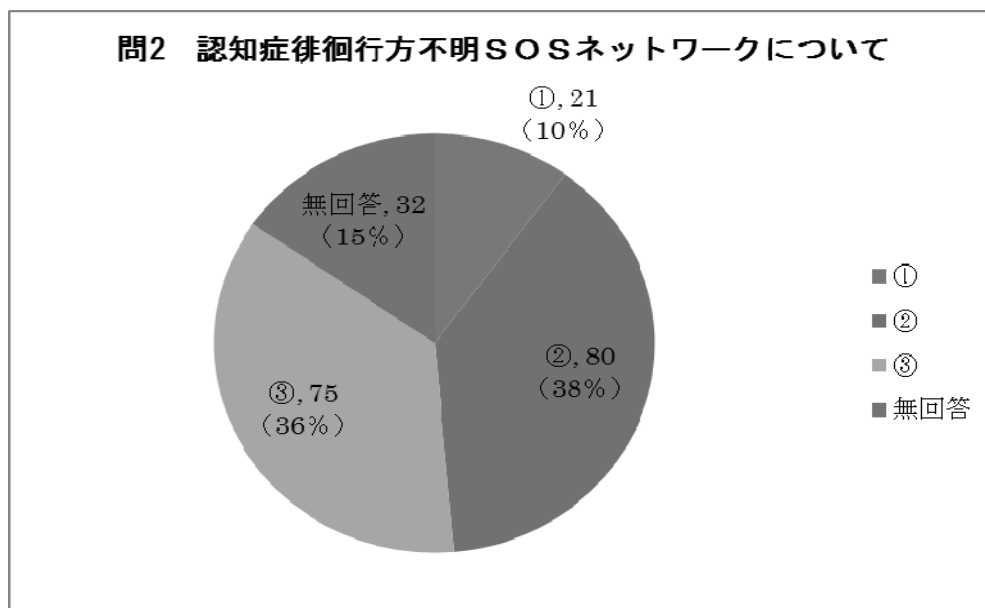
- ① 現在、心配な人が身近にいる
- ② 現在、心配な人はいないが過去にいた
- ③ 身近にいないが、気になる人を見かけたことがある。
- ④ 身近にいないし、みかけたこともない。
- ⑤ わからない



事前アンケートでは、①「現在、心配な人が身近にいる」「現在、心配な人はいないが過去にいた」「身近にいないが、気になる人を見かけたことがある」を合わせると、全体の8割を超えている。

問 2. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークについて

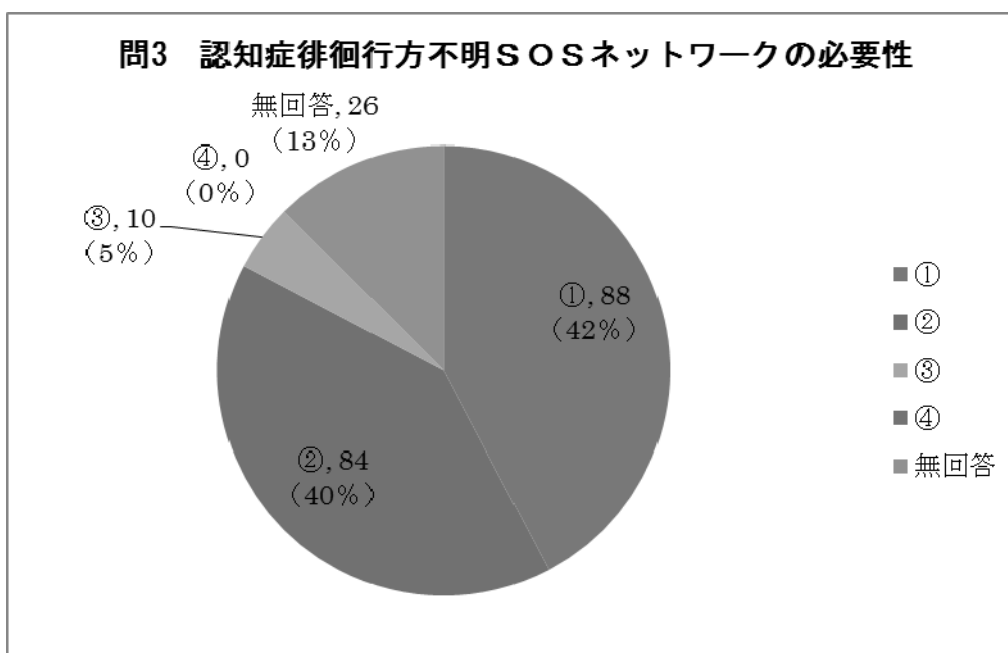
- ① 自分の市町にある。
- ② 自分の市町にはない。
- ③ 自分の市町にあるかないか、わからない



セミナー参加希望者の中でも、自分の市町に SOS ネットワークが③「あるかないかわからない」が3割を超え、無回答まで入れると5割に達する。

問3. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性

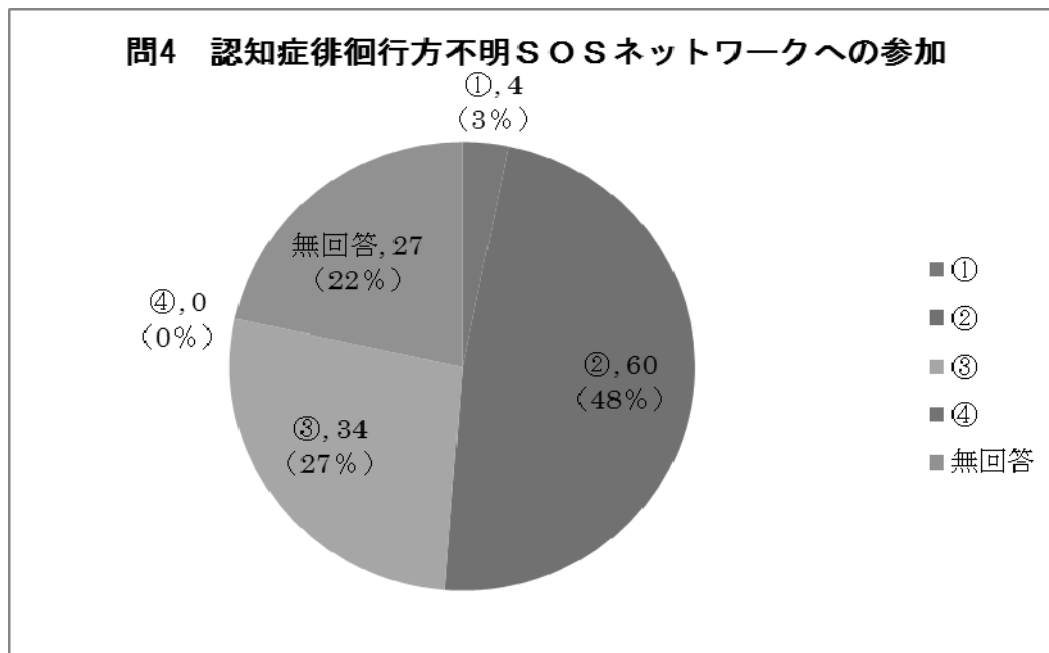
- ① 大いに必要である。
- ② 必要である
- ③ 必要かどうかよくわからない
- ④ 必要性を感じない
- ⑤ 無回答



認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性は8割が必要であると答えている。

問 4. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークへの参加

- ① 地域の SOS ネットワークに入っている。
- ② 入っていないが、呼びかけがあれば入りたい
- ③ 入るまではいかないが、関心はある
- ④ 関心がない

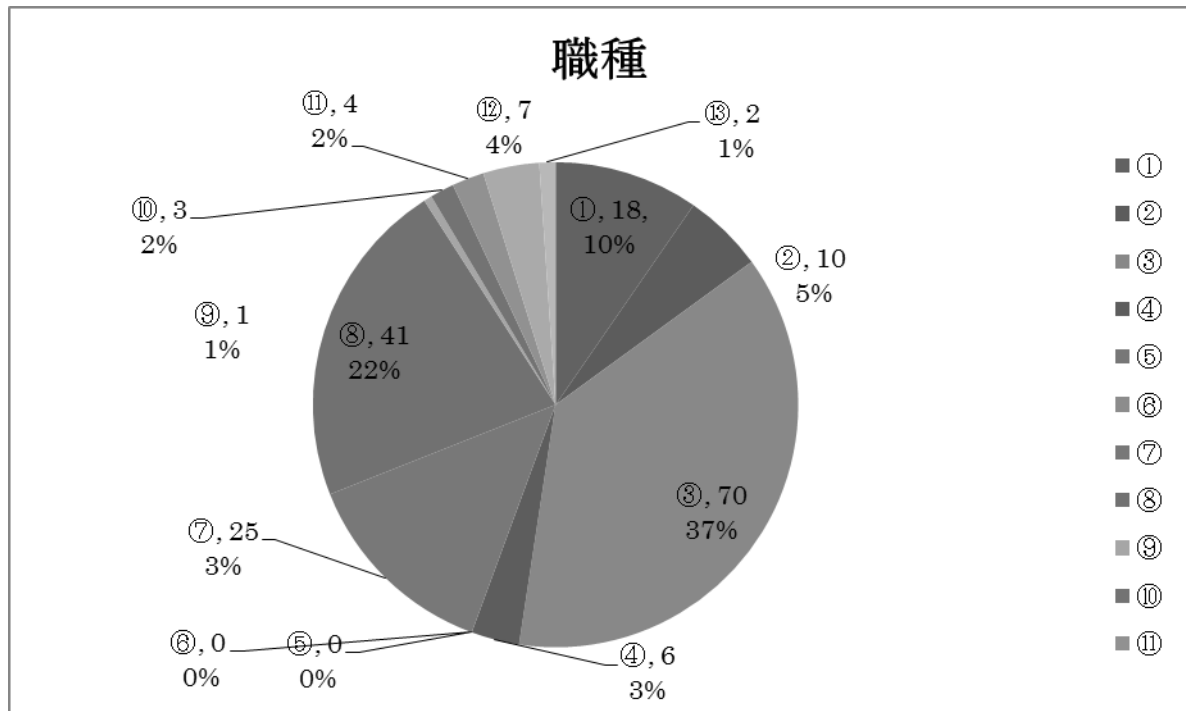


事前アンケートでは約半数が SOS ネットワークへの参加意識があるといえる。

当日アンケート結果

問 1. 参加者職種：選択

- ① 行政事務職 ② 行政保健師 ③ 地域包括支援センター職員 ④ 社会福祉協議会職員
⑤ 警察職員 ⑥ 消防組合・消防団民 ⑦ 民生委員 ⑧ 介護・福祉サービス職員
⑨ 医療サービス職員 ⑩ 介護家族 ⑪ 一般住民
⑫ その他（ ）

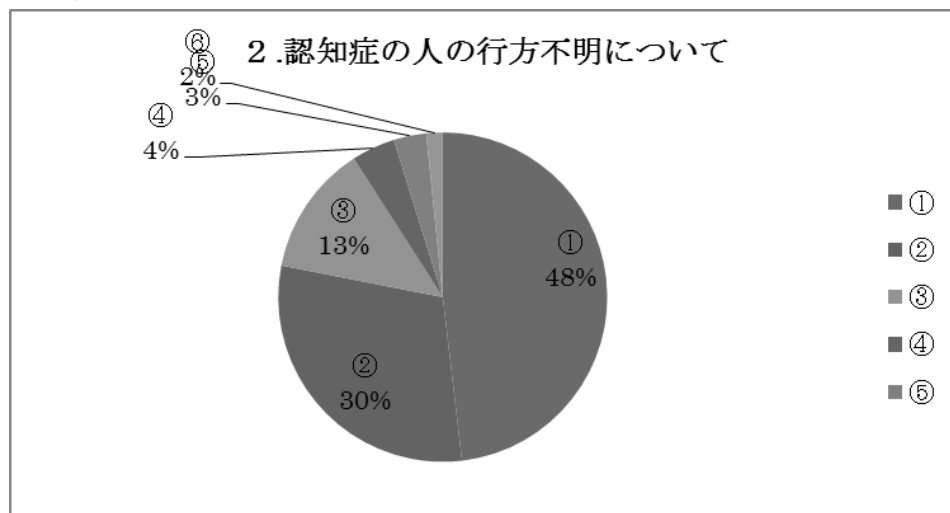


静岡セミナーの参加者は多い職種から

③ 地域支援センター職員、⑧ 介護・福祉サービス職員、⑦ 民生委員、① 行政職員の順になっている。

問 2. 認知症の人の行方不明について

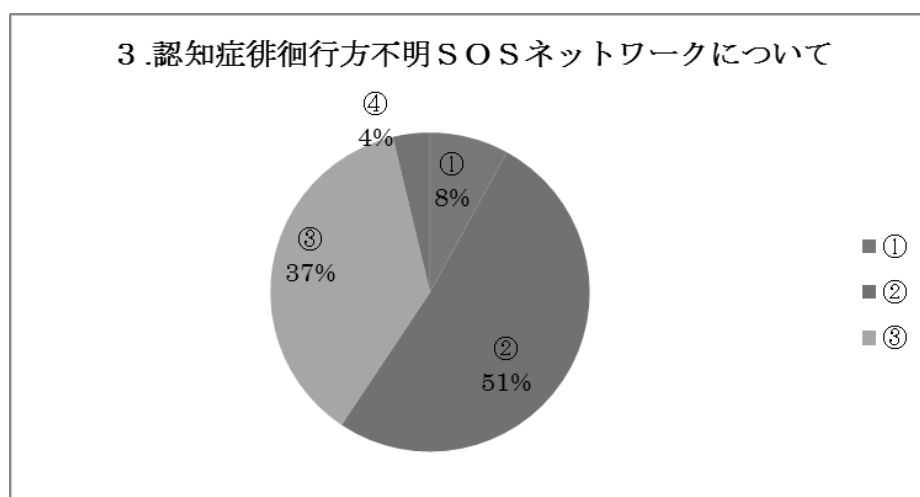
- ① 現在、心配な人が身近にいる
- ② 現在、心配な人はいないが過去にいた
- ③ 身近にいないが、気になる人を見かけたことがある。
- ④ 身近にいないし、みかけたこともない。
- ⑤ わからない
- ⑥ 無回答



事後アンケートでは身近に認知症の人を見かけているひとは9割に達している、これは事前アンケートでは8割であったので、このセミナー参加に際して、より意識したものと考えられる。

問 3. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークについて

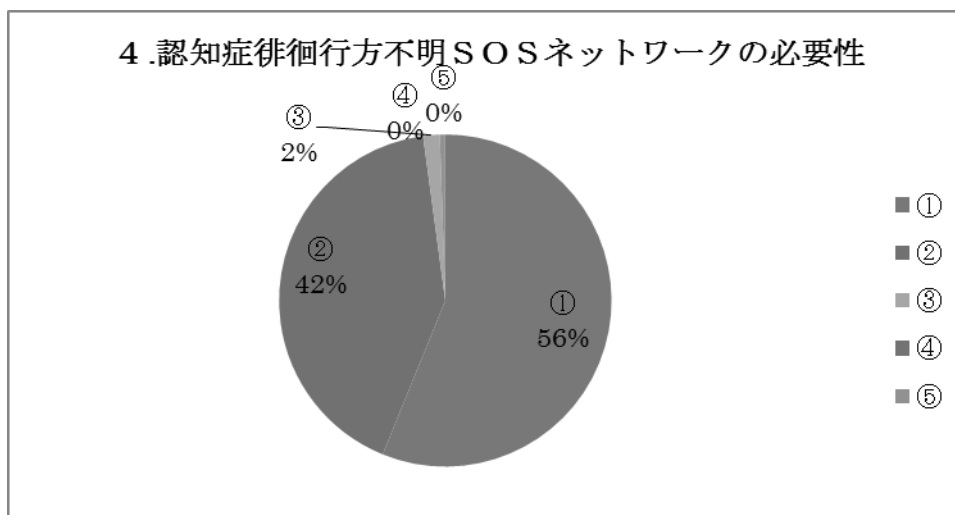
- ① 自分の市町にある。
- ② 自分の市町にはない。
- ③ 自分の市町にあるかないか、わからない。
- ④ 無回答



事後アンケートでは、②の「自分の市町にはない」が、事前の38%から51%になり無回答が減っていることから、参加に際して確認したものと考えられる。このことを見てもセミナー開催の意味があるものと考えられる。

問 4. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性

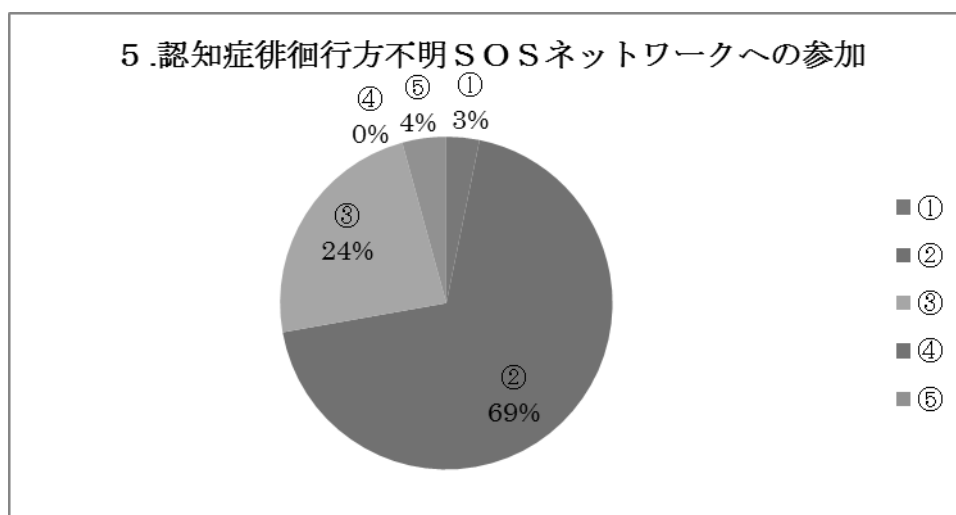
- ① 大いに必要である。
- ② 必要である
- ③ 必要かどうかよくわからない
- ④ 必要性を感じない
- ⑤ 無回答



ネットワークの必要性に関しては 98%の人が必要であると答えている。事前では 82%であった。

問 5. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークへの参加

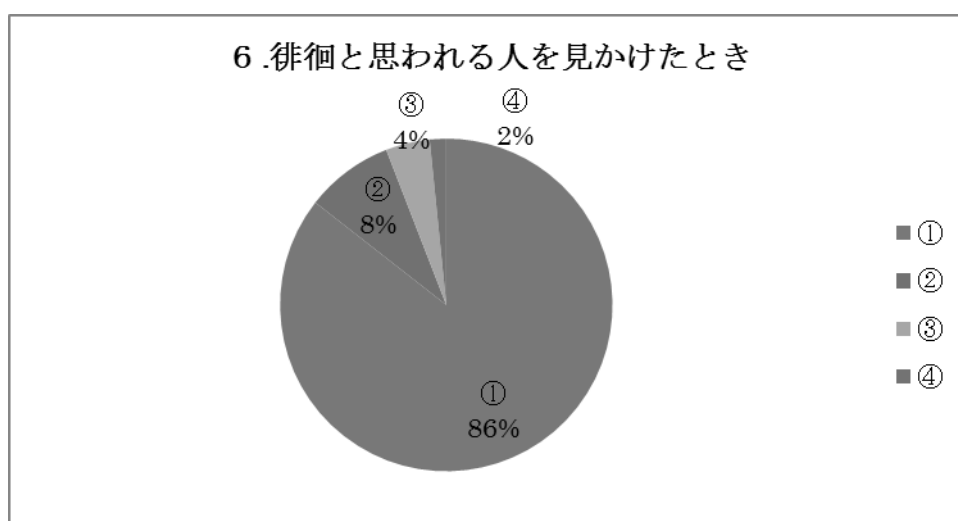
- ① 地域の SOS ネットワークに入っている。
- ② 入っていないが、呼びかけがあれば入りたい
- ③ 入るまではいかないが、関心はある
- ④ 関心がない
- ⑤ 無回答



参加意識に関しては、参加の意思がある人が70%であり、関心まで入れると95%が意識をもっている。事前では75%であったことから、セミナー開催によりネットワークへの参加意識が高まったと考えられる。

問6. 徘徊と思われる人を見かけたとき

- ① とにかく声をかけてみる
- ② 声のかけ方が解らない
- ③ 警察に知らせる
- ④ 無回答



セミナー参加者は86%の人が「とにかく声をかけてみる」と答えている。

<総評>

静岡でのセミナーは静岡県の協力のもと参加者の募集を行った。今回のセミナーを開催するにあたり、事前アンケートと事後アンケートを行った。その結果、セミナーへ参加することにより、「周りの認知症の人に対する意識」、「認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性」「ネットワークへ関わろうとする意識」が高まった。また、自分の市町にネットワークが「あるかないか、わからない」と約3割が答えていることから、こういったセミナーを開催し、県下のどの地域にはネットワークがあり、どこにはないのかといった、現状の認識を共有する必要がある。こういった情報の共有が広域化につながっていくと考えられる。

今回のセミナー開催時に行った事後アンケートの職種別では、下記のように、認知症の人の行方不明について、①「現在、心配な人が身近にいる」の回答で行政職員と地域包括支援センター職員では大きな認識の違いがありました。このことがネットワークの整備がなかなか進まないことに関係しているのではないかと考えられる。

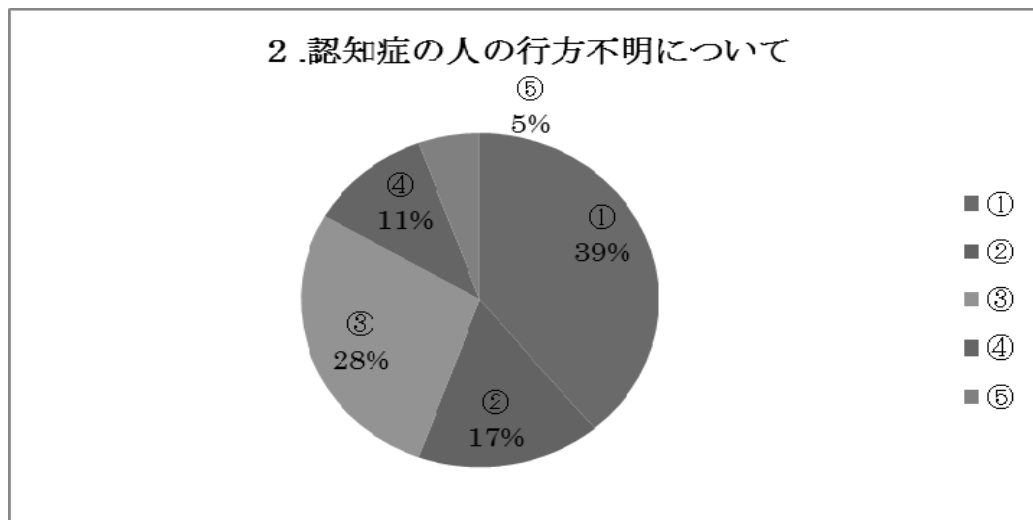
そして、参加者のほとんどの人が「徘徊と思われる人を見かけたとき」で、①「とにかく声をかけてみる」と答えている、このことは大切なことではあるが、声のかけ方、対応の仕方等

が適切であるかなどの確認のためにも、徘徊模擬訓練により、ネットワークの検証と共に、対応方法なども確認していく必要があると考えられる。

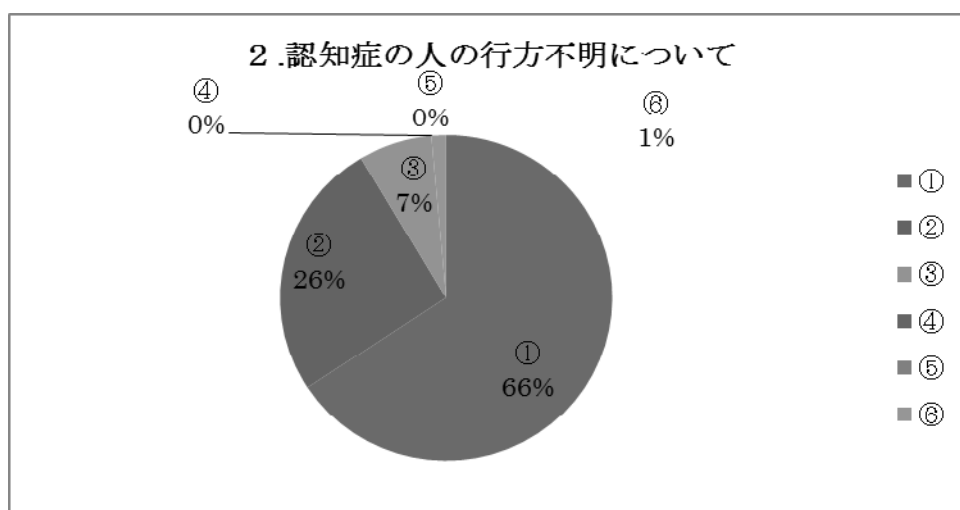
問 2. 認知症の人の行方不明について

- ① 現在、心配な人が身近にいる
- ② 現在、心配な人はいないが過去にいた
- ③ 身近にいないが、気になる人を見かけたことがある。
- ④ 身近にいないし、みかけたこともない。
- ⑤ わからない
- ⑥ 無回答

●行政職員



●地域包括支援センター職員



(3) 兵庫県川西市（平成 23 年 2 月 4 日）

<会場> 川西市文化会館ホール

<目的> 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性和このネットワークの意味について考える。

<プログラム>

認知症徘徊行方不明者ゼロ作戦推進フォーラム in 兵庫県川西市

13：30～13：35 開会の挨拶

13：35～14：30 特別講演「認知症高齢者とのつきあい方」
福井辰彦（丹波認知症疾患医療センター長
特別医療法人敬愛会大塚病院精神科医療部長）

14：30～14：45 休憩

14：45～16：00 鼎談

テーマ「安心して徘徊できるまちをつくるには？」

- ・永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター）
- ・岩渕 雅子（釧路地区障害老人を支える会たんぽぽの会）
- ・森上 淑美（川西市地域包括支援センター）

16：00 閉会

<参加者>

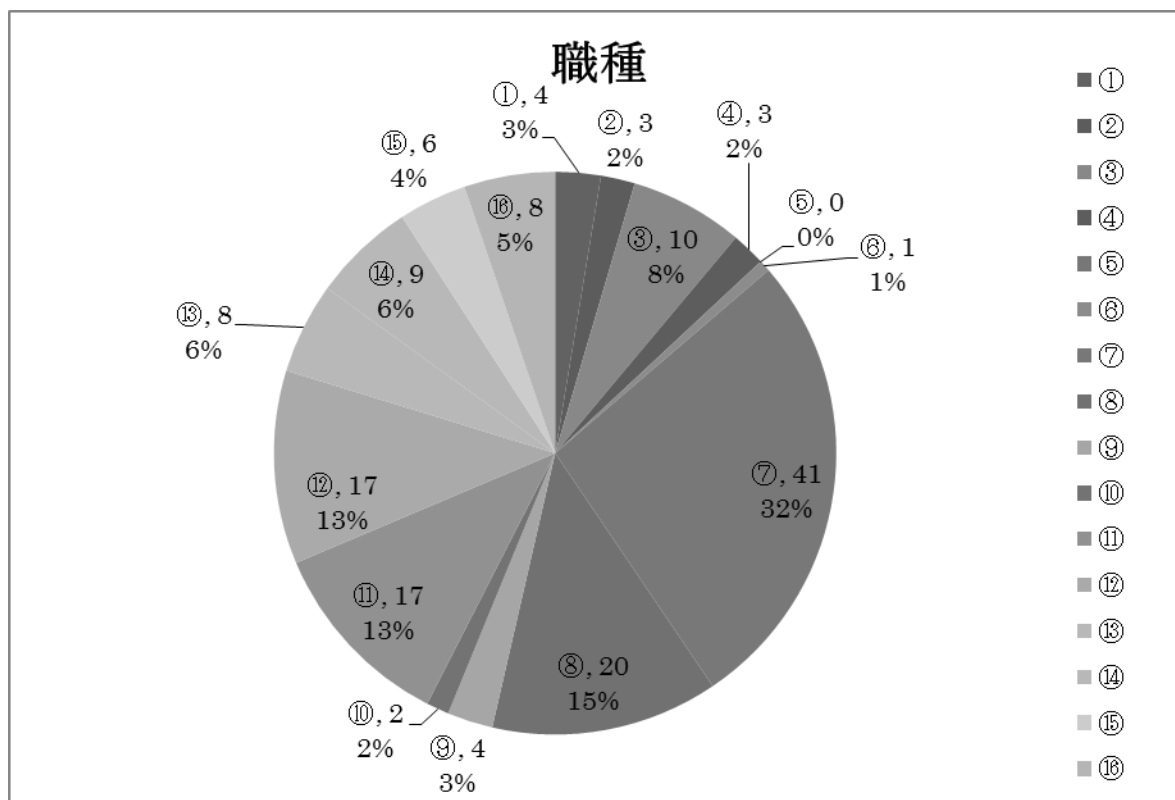
280 名（参加者 270 名、関係者 10 名）



〔アンケート結果〕

問 1. 参加者職種：選択

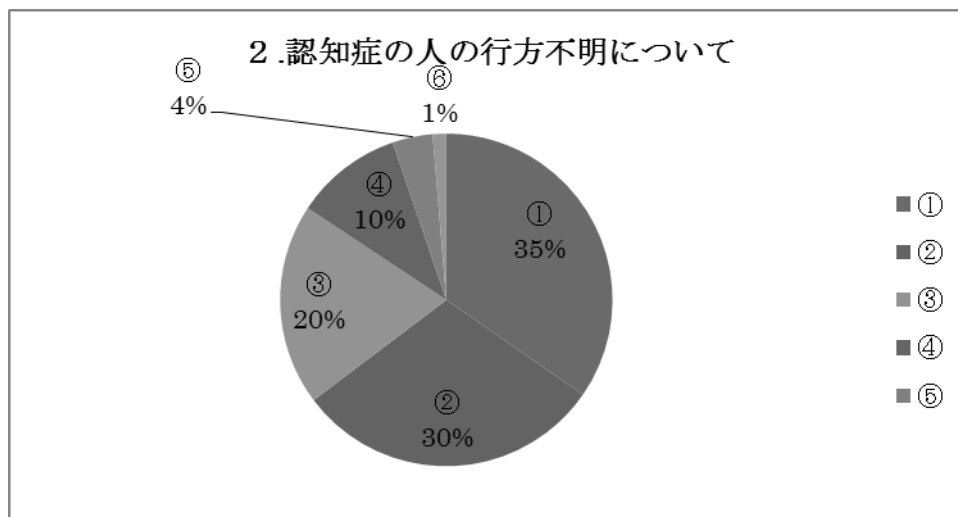
- ① 行政事務職 ② 行政保健師 ③ 地域包括支援センター職員 ④ 社会福祉協議会職員
⑤ 警察職員 ⑥ 消防組合・消防団員 ⑦ 民生委員 ⑧ 介護・福祉サービス職員
⑨ 医療サービス職員 ⑩ 介護家族 ⑪ 一般住民 ⑫ 福祉委員
⑬ 認知症サポーター ⑭ 認知症キャラバンメイト ⑮ その他 ⑯ 未記入



川西市での参加者は、⑦ 民生委員、⑫ 福祉委員、⑪ 一般住民などの地域住民の参加が多かった。

問 2 . 認知症の人の行方不明について

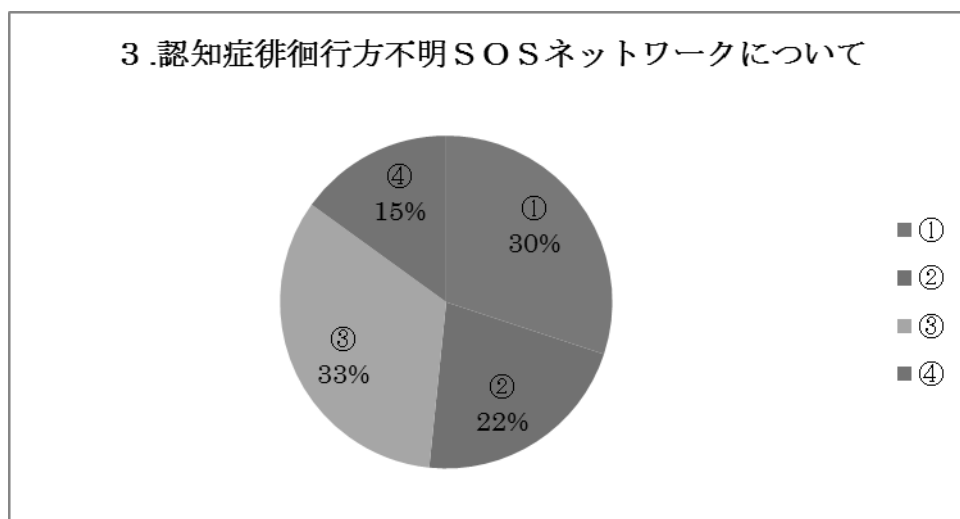
- ① 現在、心配な人が身近にいる
- ② 現在、心配な人はいないが過去にいた
- ③ 身近にいないが、気になる人を見かけたことがある。
- ④ 身近にいないし、みかけたこともない。
- ⑤ わからない



参加者に地域住民が多いせいか、③「身近にいないが、気になる人を見かけたことがある」まで入れると 85%になる。

問 3 . 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークについて

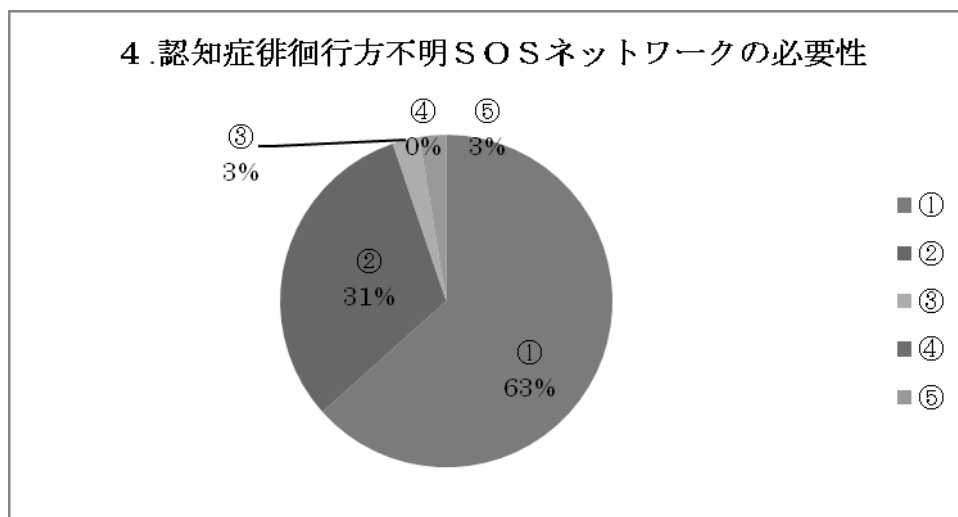
- ① 自分の市町にある。
- ② 自分の市町にはない。
- ③ 自分の市町にあるかないか、わからない。
- ④ 無回答



SOS ネットワークが自分の市町に ③「あるかないか、わからない」と答えたひとが 33%いた。

問 4. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの必要性

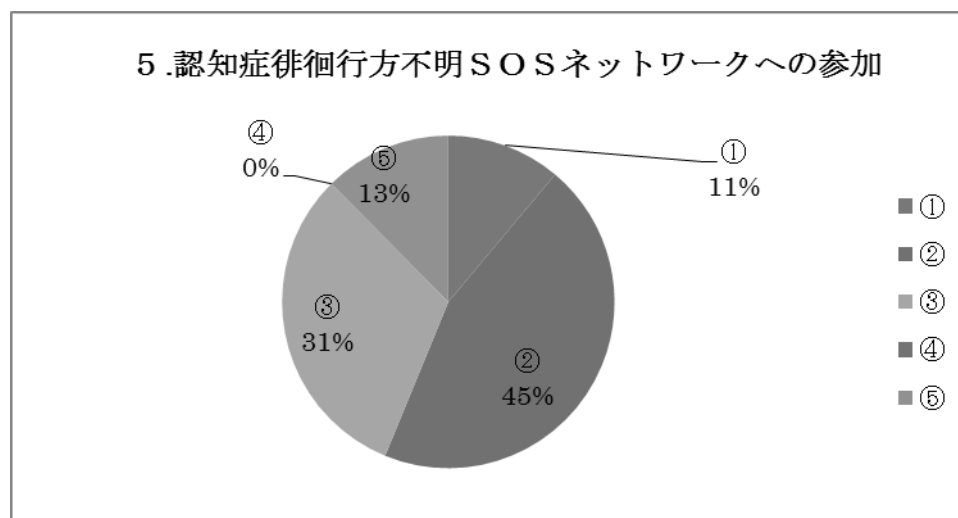
- ① 大いに必要である。
- ② 必要である
- ③ 必要かどうかよくわからない
- ④ 必要性を感じない



セミナー参加者は 94%が必要と感じている

問 5. 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークへの参加

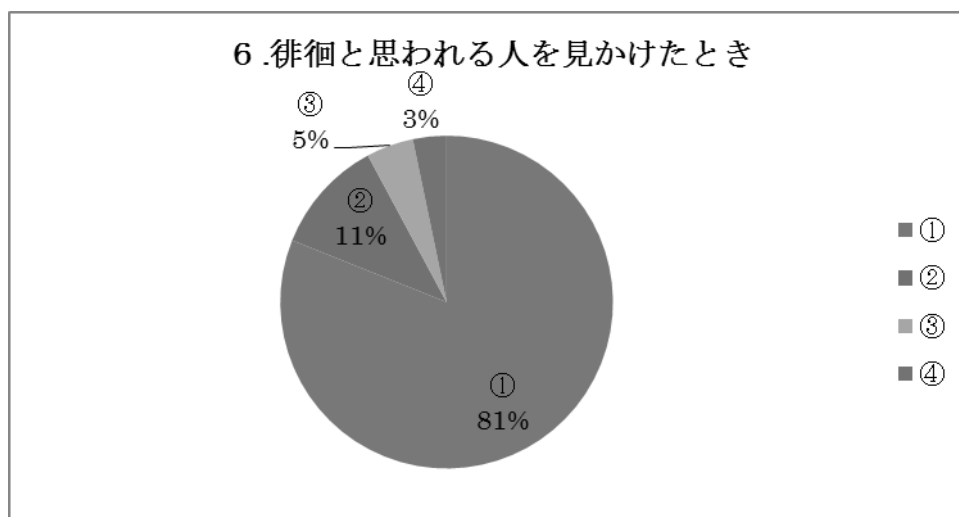
- ① 地域の SOS ネットワークに入っている。
- ② 入っていないが、呼びかけがあれば入りたい
- ③ 入るまではいかないが、関心はある
- ④ 関心がない



セミナー参加者では、③「関心はある」までいれると 87%になる。

問6. 徘徊と思われる人を見かけたとき

- ① とにかく声をかけてみる
- ② 声のかけ方が解らない
- ③ 警察に知らせる
- ④ 無回答



①「とにかく声をかけてみる」が81%になった。

<総評>

川西市でのセミナーでは、現在、川西市では地域包括支援センターを中心にしたSOSネットワークを目指しています。地域包括支援センターは地域の認知症の人と家族を、ケアマネジャー、介護サービス事業所、民生委員、福祉委員と連携を取りながらサポート体制を進めている。今回のセミナー参加者も介護サービス事業所、民生委員、福祉委員が多数になっている。これらの方々に認知症徘徊行方不明SOSネットワークの必要性和、このネットワークへの参加意識を高める機会となった。

ここでも、「徘徊と思われる人を見かけたとき」の問いでは、81%が「とにかく声をかけてみる」と答えていることから、徘徊模擬訓練を通して、声掛けの仕方などの対応方法を確認していく必要があると考えられる。

(2) 先進自治体調査・取材

＜目的＞ 全国の認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの取り組みを調査、取材しセミナーおよび映像教材に活用する

(1) 福岡県大牟田市徘徊模擬訓練

大牟田市では今年で7回目の徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練を実施している。ここでは、各学校区での徘徊役を立てての訓練と、市全体での徘徊役を立てての訓練を行っている。今回は市全体での訓練の模様を取材、主催者のインタビューを交えて、訓練の流れとポイントを映像教材とした。

徘徊模擬訓練が目的ではなく、この訓練を通してネットワークに情報が正確に素早く流れているか、それぞれの対応はどうか、徘徊役への地域住民の対応は適切か、などを検証しネットワークを育てていくことが大切である。

(2) 兵庫県川西市地域包括支援センターの取り組み

兵庫県川西市では、地域包括支援センターが中心になり、ネットワーク構築を進めている。この地域包括支援センターへのインタビューで以下のことが解った。

地域包括支援センターは

- ・地域の認知症の人と家族の状況を把握しやすい
- ・地域の支援者、民生委員、福祉委員などの活動状況の把握や連携、協力体制を取りやすい
- ・ケアマネジャーや介護サービス事業所などとの連携が図りやすい
- ・行方不明時の情報収集、近隣の搜索活動などを把握しやすい

など、地域包括支援センターは、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークにおいて、地域の様々な人々を有効に結びつける大切な役割を担っていることがわかった。

(3) セミナー用映像教材の作成

平成 18 年度に作成した、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの映像をベースとして、今回新たに取材、撮影した、福岡県大牟田市模擬徘徊訓練と兵庫県川西市地域包括支援センターの取り組みを追加してセミナーでも使いやすいように再構成を行った。

D V D メニュー

認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築に向けた調査研究事業

□徘徊 SOS ネットワークとは

(ネットワークの必要性を考える)

- ☐徘徊 SOS ネットワーク事例
(神奈川県茅ヶ崎市の事例)
- ☐ネットワークへの参加と徘徊模擬訓練
(福岡県大牟田市の実践)
- ☐全部見る
- ☐声のかけ方ワンポイント
(大牟田市ホームページより)
- ☐付録 群馬県沼田市模擬徘徊訓練の様様

(4) ホームページの充実

「高齢者の見守り・SOS ネットワークを築こう」

<http://www.silver-soken.com/sos-net/index.html>

1) 22 年度報告書をホームページ上で公開

2) 映像教材の更新

※ 18 年度制作の映像教材に、大牟田市での模擬徘徊訓練の様様を追加して、セミナー等でも活用できるように、改訂を行った。

3

今後の課題・提言

3. 今後の課題・提言

「セミナー開催と委員会から見た、認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築に向けた、認知症見守り SOS ネットワークの推進」。

今年度の事業では認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築に向けた調査研究事業として検討委員会を開き、全国3か所でセミナーを開催しました。その中で委員会での討議、またセミナーを開催した結果から以下のようにまとめることができます。

【認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークに必要な2つの機能】

- 1) 行方不明者が出た場合の搜索、発見
- 2) 認知症の理解と地域の安心、安全のための見守り

この二つの機能を確立していく必要があります。

1) 行方不明者が出た場合の搜索、発見

1) 行方不明者搜索のためのネットワーク

認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの構築と実際の搜索活動

- ・認知症の人が行方不明になった時、家族はどのような思いでいるのでしょうか？そこには生死が関わってきます。その行方不明者を探すためには、より多くの人の手によってなるべく短時間で搜索できるようなネットワークが必要になってきます。

図5 の点線で囲まれた部分がこれまでのネットワークフロー図です。ネットワーク構成団体は、見かけたら連絡する、近所を探してみるなど搜索に協力していただくわけですが、実際に短時間に搜索を行うには、積極的に、情報収集と搜索活動を行う、搜索本部と搜索隊の設置が必要になってきます。これらの設置は行政の責務になってきます。このフロー図（図3）により、それぞれの役割を考えます。

- ・ケアマネ、介護サービス事業者

家族から、ご本人の状態、立ち寄り先の情報収集、場合によっては家族と共に警察への搜索願提出のサポート、搜索隊への参加。

・地域包括支援センター

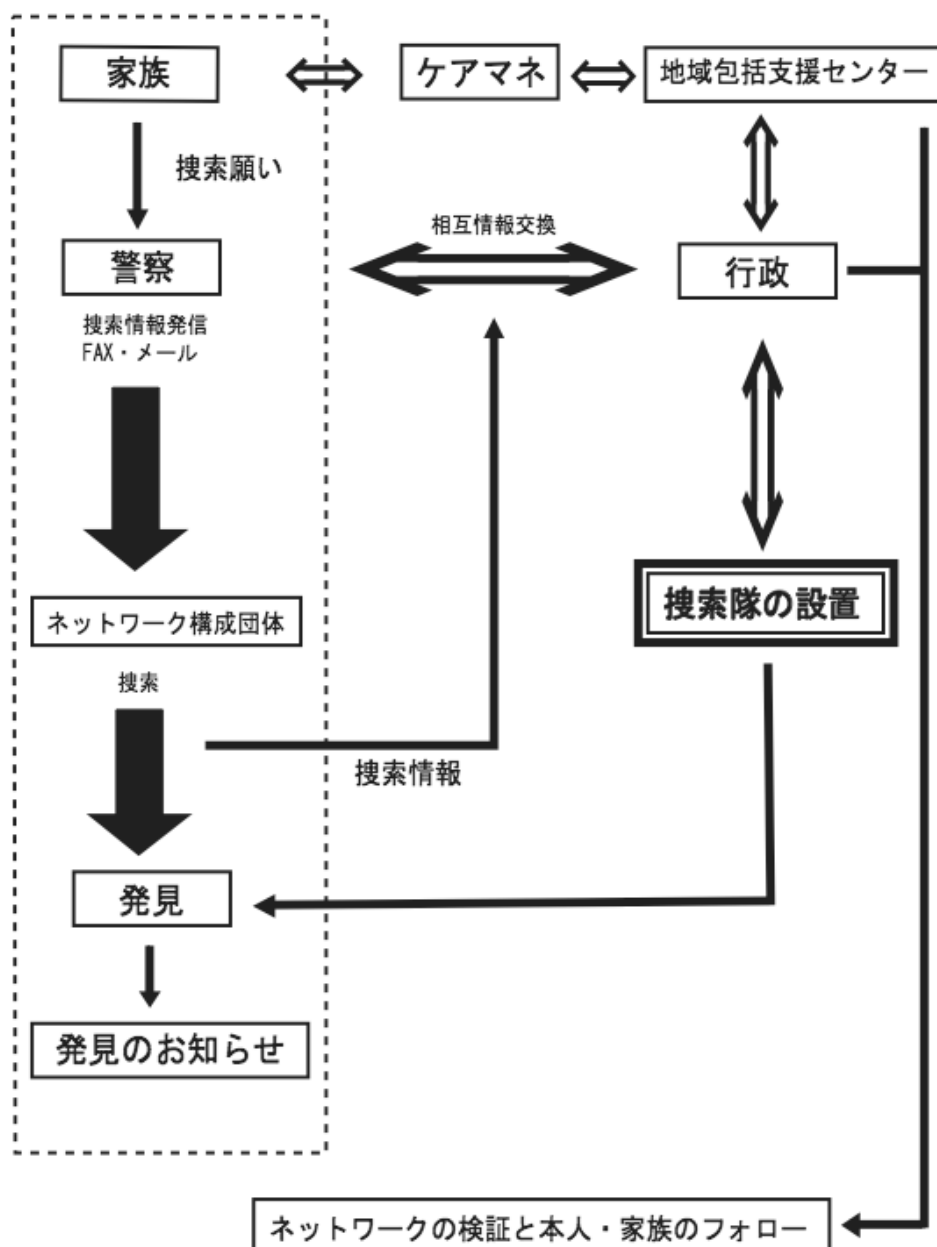
ケアマネ、介護サービス事業者からの情報の整理、行政に連絡、捜索隊に参加、家族と共に警察への捜索願提出のサポート。

・行政

警察からの捜索情報が入り次第、捜索本部を設置、地域包括と連携して、捜索情報の整理と、捜索隊の編成、警察と連携して捜索全体の統括。

捜索隊には、地域包括支援センター職員、介護サービス事業所職員、民生委員、認知症サポーター、地元住民などに協力を依頼、連携を取りながら、迅速な捜索にあたる。

図 3 認知症見守りSOSネットワーク フロー図



今までのネットワーク図（点線で囲まれた部分）では搜索を統括するところが明確になっていませんでした。今回の委員会でも、やはりこのネットワークでは、行政の立場、ネットワークを担う部署とその責任、実際の動きなどを明確にしておく必要があるとの意見がでました。

2) 搜索結果の検証と本人・家族のフォロー

搜索結果の検証は、ネットワークがどのように機能していたか、問題点はなかったのか、また本人と家族を今後、誰が、どのようにサポートしていくのかを検討することで、地域包括支援センターを中心に日常の見守り体制を構築することができます。また、家族が早く SOS ネットワークに繋がれることにもつながっていきます。

(2) 認知症の理解と地域の安心、安全のための見守り

1) 認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークにより認知症の理解と地域の安全、安心の確立、認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの構築には地域住民に認知症の理解を進めることが必要です。そしてこの SOS ネットワークは地域の高齢者や障害者、子供など、地域の安全、安心の確立にも大切なことです。

2) 地域包括支援センターを中心にした、日常の見守りネットワーク

たとえ徘徊しても隣近所の見守りがあれば、行方不明になることを少なくすることができます。この日常の見守りには、地域包括支援センターを中心にしたケアマネ、介護サービス事業所、民生委員、福祉委員、ボランティア団体、地域住民などの地域での見守り体制の確立と、本人、家族のサポートが大切です。

3) ネットワークの検証と住民への周知のための、徘徊模擬訓練

地域住民に認知症徘徊行方不明 SOS ネットワークの意味と活用に関して周知し、認知症の理解と、実際の声掛けなどの対応力を付ける必要があります。またネットワークに協力いただく方々を、顔の見える関係にしていくためにも、徘徊模擬訓練が必要になってきます。

~~~~~ 大牟田市徘徊模擬訓練における、声かけの仕方 ~~~~~

- \* ゆっくり近づいて、相手の視野に入ってから、話しかける
- \* 近づきすぎず、しかし目線を合わせ、ゆっくりと穏やかな口調で。急に後ろから声かけたり、大声で怒鳴るように声かけない
- \* 声かけは「こんにちは」「お暑いですね」など、ごく普通にあいさつから
- \* 「私はすぐその〇〇ですが、どこからいらっしゃいましたか？」とか「どこへ行かれますか？」と、やさしく声かける
- \* 「何かお困りですか？」「大丈夫ですか？」「何かお手伝いしましょうか？」も  
いい質問
- \* わかりやすい簡潔な言葉で、一つずつ話しかける。返事がないからといって、  
矢継ぎ早に質問せずに、答えをゆっくり待つ
- \* 突拍子も無い、不可解な言動をされても、否定せず、奇異な目で見ない
- \* 厳しい顔、困った顔、奇異な表情をせずに、笑顔で相手のペースに合わせてな  
がら接する
- \* 腕組や上から見下すような目線、数人で取り囲む、急に腕を掴んだり、身体  
に触れると、警戒心を持たれ逃げていかれることがある
- \* 少しゆっくり歩きながら、声かけしたり、「少し休んでいかれませんか？」「冷  
たいお茶でもいいかがですか？」などと声かけ、少し座られるように促してみ  
る
- \* 声かけても、上手く行かない場合は、いったん離れて、間をおき、または近  
所のほかの人に連絡し、助けを求める
- \* 本人情報を持っていたら、その情報（例：旧姓や出身、なじみの場所等）を  
上手く使って、話しかける
- \* この土地の人なら、なじみの場所や土地の言葉を使う

大牟田市ホームページより





# 考察



## 4. 考 察

認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦セミナーを開催して、セミナーの開催にあたっては

- ・認知症見守り SOS ネットワークの必要性（映像教材の活用）
- ・地域の行方不明者の現状報告
- ・認知症の人と家族の思い
- ・地域の SOS ネットワークの現状

上記の事柄をセミナーに落とし込み、開催しました。

セミナーを開催することで

- ・身近にいる認知症の人に対する意識の変化
- ・SOS ネットワークの必要性和ネットワークへの参加意識の向上
- ・SOS ネットワークで、さまざまな職種や人が関わることの必要性和意義
- ・地域の SOS ネットワークの現状の把握と広域化への対応

以上のことを参加者に意義づけることができました。

また、今回のセミナー開催で、地域包括センターによる地道な見守り活動も報告されており、これらの活動をつなげ、より大きなネットワークにしていくためにも、セミナーなどの共通認識を持つ場が必要です。

そして、この SOS ネットワークは今まで警察が中心に搜索を行っていました。行方不明者が出た場合、基本的には警察が中心に搜索を行うわけですが、認知症の人にはよりきめ細かな対応が必要になってきます。そのためにも行政による

- ・搜索本部の設置
- ・搜索隊の編成

が必要になってきます  
これにより

- ・搜索情報の整理

が可能になります

また、発見された場合の認知症の人と家族のフォローを地域包括支援センターと共に行っていくためにも搜索状況の把握は大切です。

つまり、警察を中心に SOS ネットワーク構成団体の協力のもと捜索を行う従来の考え方に、積極的に捜索活動を行う、行政を中心にした捜索本部と捜索隊の 2 本柱が必要になってきます（図 5）。

このような動きにすることで、役割の明確化ができ、行政による近隣の市町村との連携も取りやすくなり広域化につなげることができるようになると考えられます。

そして今回のセミナー開催と取材で、地域包括支援センターの役割が大切なことも解りました、地域包括支援センターでは

- ・ 認知症の人の日常での支援の状況
- ・ ケアマネジャーの情報、介護サービス事業所での状況
- ・ 地域の民生委員、福祉委員やボランティア団体の活動状況

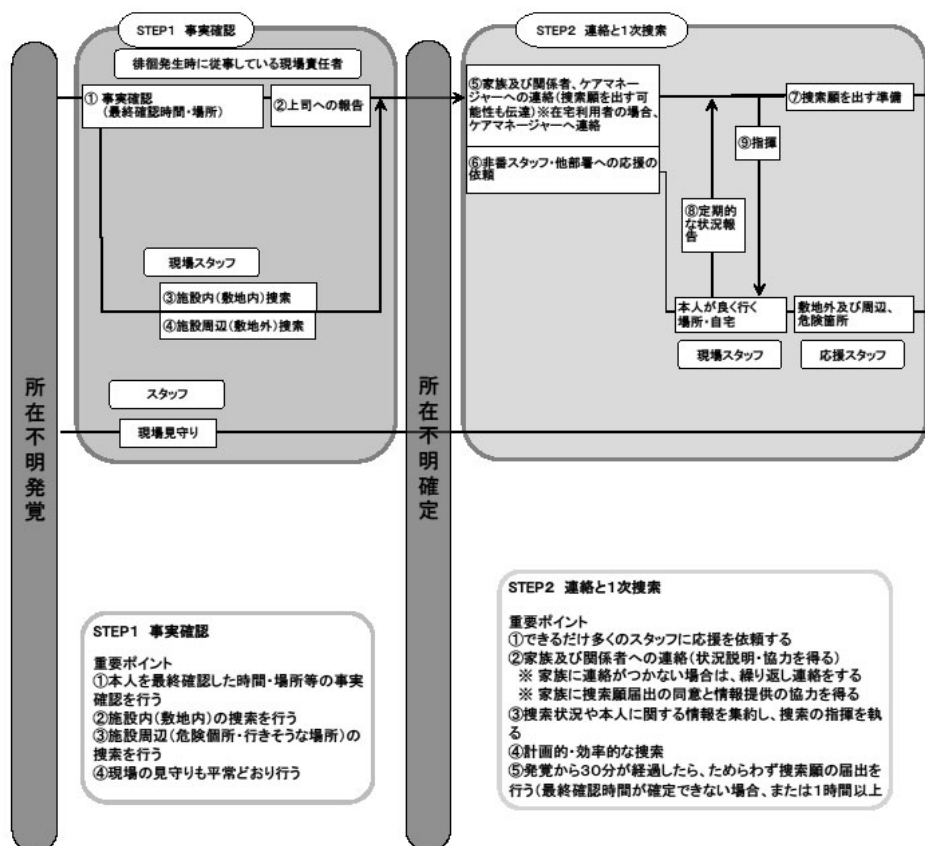
これらを把握しやすい立場にあり、情報と人材を有効に結びつけることにより、日常の見守り体制から、いざという時の捜索協力者まで可能になります。

静岡セミナーではすでに地域での見守りを始めている所もあり、この、地域での見守り体制を市町村のネットワークにつなげていくことが大切です

また、今回の大牟田市でのセミナーで介護サービス事業所での徘徊行方不明の対応に関してのガイドラインが出されました、事業所でもガイドラインにそって行動することにより、迅速に対応できるようになると考えられます（図 4）。

図 4-1

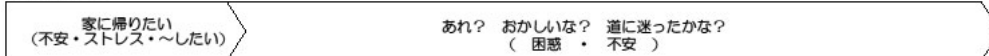
事業所における認知症の人の徘徊発生時のフロー



所在不明発生時の対応方針

1. 正確な状況判断と迅速な対応
2. 初動の的確な指示と部署や事業所を超えた連携
3. 密な情報共有と柔軟な対応の展開

本人の状態像



家族の状態像



図 4-2

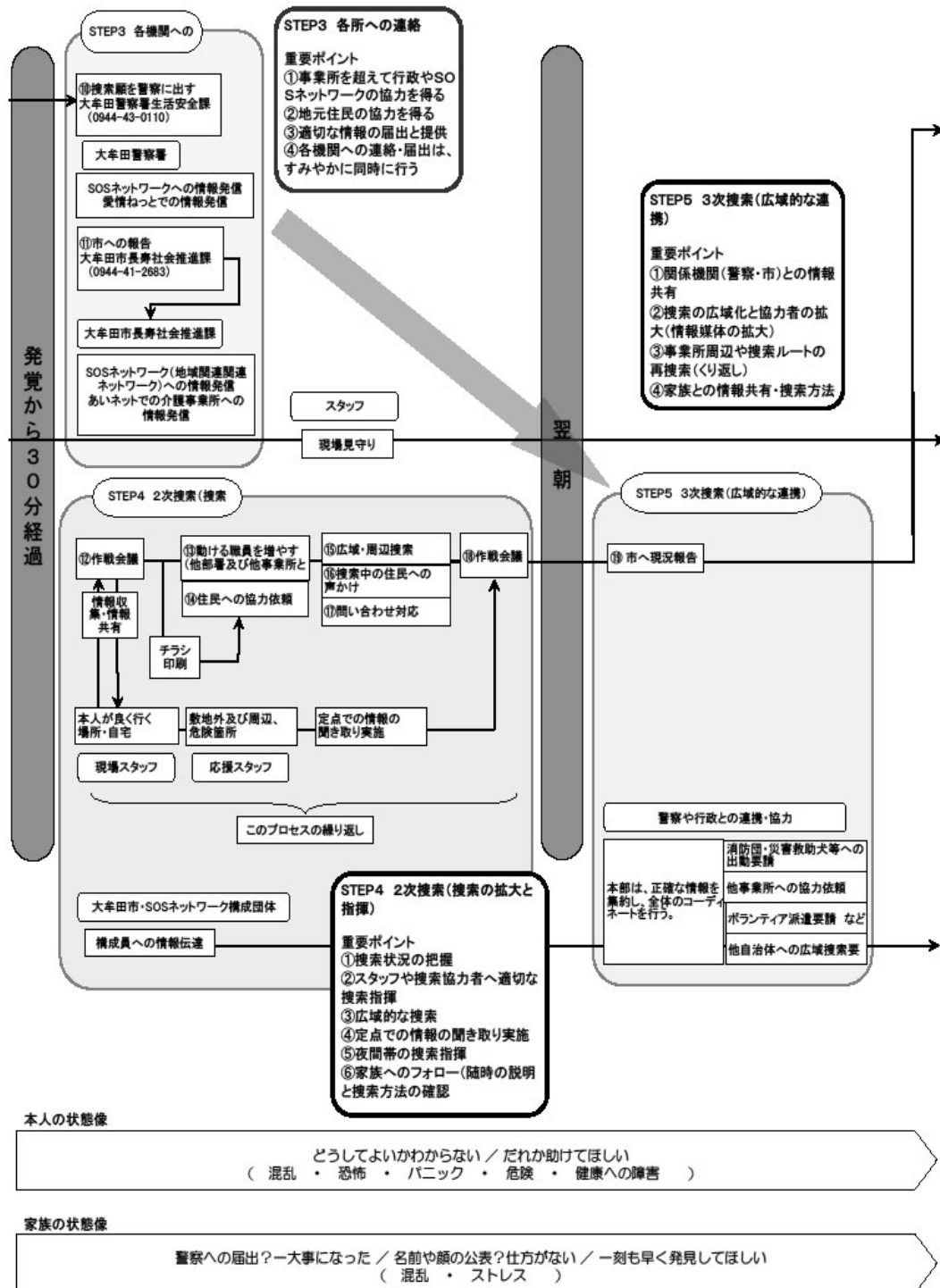
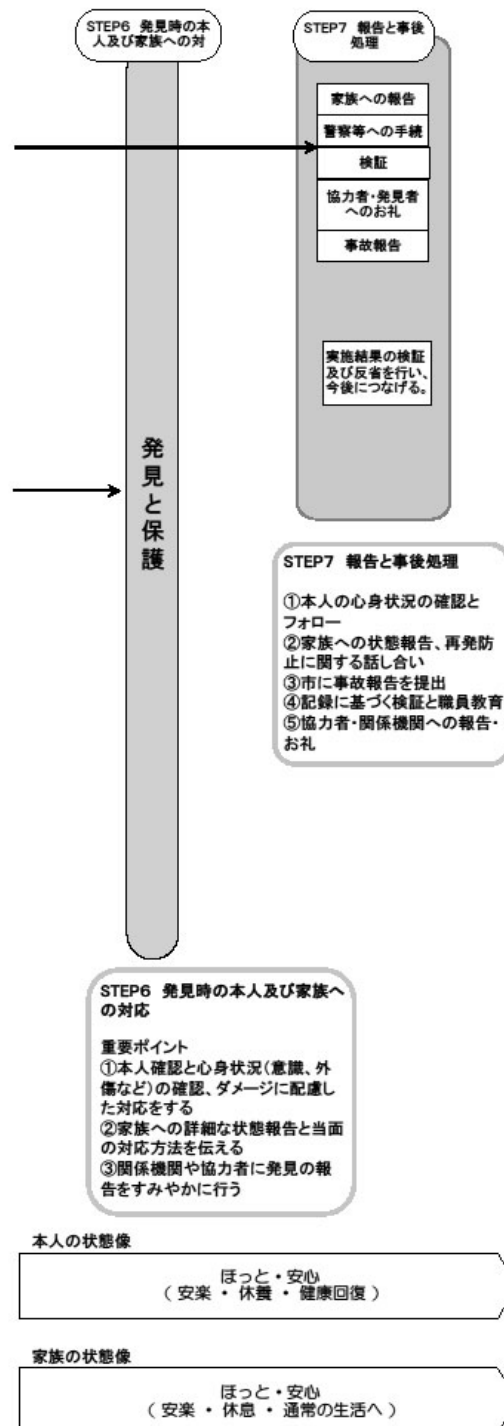


図 4-3





## 參考資料



# 参考資料

## 1. 北海道釧路市の事例

### 1) 「徘徊から希望を取り戻そう！～釧路地域 SOS ネットワークの 15 年を振り返って～」

釧路市介護高齢者福祉課主査 石川美佐絵（情報受信・調整）

#### <エピソード>

本年 9 月 2 日の午後 4 時頃、釧路市東部にお住まいの 74 歳の女性が行方不明になりました。

この女性のご主人・長男さんとの 3 人暮らしですが、夫婦共に認知症気味だったようで、女性は以前にも保護歴がありました。

初めは、ご主人は奥様がなくなったことに気付かず、帰宅した長男さんが夜 8 時頃に警察に捜索を依頼し、夜間は警察による捜索が行われましたが、見つかりませんでした。

翌朝 9 時頃、釧路警察署生活安全課から連絡を受け、対象者の情報を F A X でいただきました。

釧路市役所では、まず住民基本台帳で世帯構成を調べ、夫婦と長男さんの 3 人家族であることを確認しました。その他に家族がいないか確認しましたが、釧路市の住民基本台帳には見つかりませんでした。

次に、要介護認定の状況を検索しましたが、夫婦共にこれまで申請したことがなかったため、関わっているケアマネジャーはおらず、サービス提供事業者などありませんでした。

高齢者福祉サービスの利用状況や、身体障害の状況なども検索しましたが、該当するものは何もありません。介護予防担当の実施する介護予防教室などに通所していないか確認しましたが、利用されていませんでした。

市役所では何も情報が得られなかったため、地域包括支援センターへ問合せましたが、包括においてもこれまで関わりがなく、情報が全く途絶えてしまいました。

9 時 15 分頃、警察へ結果をお知らせし、10 時頃に自宅から 9 k m ほど離れた地域の路上でうずくまっているところを通行人が声をかけ、最寄りの交番へお連れし、無事保護されたとの連絡をいただきました。

その旨を自宅へ連絡しましたが、誰も電話に出ず、長男さんは携帯電話を持っていなかったため、自宅周辺等で探したり、帰りを待っておられるのではないかと考え、包括に自宅への訪問とアフターケアをお願いしました。

包括の所長は快く引き受けてくださり、訪問してくださいました。対象者のご主人が自宅へ戻っておられ、対象者が帰宅されるまで待っていると所長から再度ご連絡をいただきました。

それと同時に、長男さんが交番へ対象者を迎えに来たことも警察からの連絡で判り、帰宅した後包括から今後のことについて相談に乗っていただけることも説明していただき、帰途に着かれました。



長男さんは動揺していたようで、包括所長の助言を受け、翌々日に対象者の要介護認定を申請されたとのことでした。

### <成果・課題>

9月のSOSネットワーク連絡会議において、警察の捜索体制について詳しくお聞きしましたが、警察担当者の捜査に対する着眼点には大変驚き、それが捜索の第1歩として非常に重要なキーになることが理解できました。

今回の成果は、第一に通行人の方が対象者の尋常でない様子を察知して声をかけてくださったこと、第二に地域包括支援センターの迅速な対応に助けられたことです。お二方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

普通であれば、見知らぬ人に声をかけるのは気が引けますし、徘徊者となればさらに勇気のいることと思います。この場合、先程の介護劇にもありましたように、間違った声かけをすると失敗しますので、注意が必要です。

つまりは、認知症に対する何らかの知識がなければ徘徊者とのコミュニケーションも成功しないということです。

この方は介護・福祉サービスを何も利用しておらず、地域との関わりも確認できなかったため、地域包括支援センターに対応を求めましたが、介護相談に乗るなどのアフターケアをしていただけのこと、その対応が素早かったことで包括としての円熟味を感じました。開設4年目になりましたが、今後も「高齢者のよろず相談所」として、市民の皆様にその役割と業務をご理解いただき、お困りの際には相談くださるようお願いしております。

### <今後の充実のために>

(SOSネットワークを通して、市民が認知症をより理解し、声かけできるまちづくりへ)

地域で認知症に理解のある方が増え、徘徊する方をご近所で見かけたら優しく声をかけていただき、家族と連携が取れる体制がベストだと思います。また、もし自宅から遠く離れてしまっても、すれ違った方の様子に気づいたら、優しく声をかけていただきたいと思います。FMくしろの情報も非常に重要ですので、ぜひお聞きいただけるとありがたいです。

認知症という病気に対する知識を持ち、認知症の人を理解していただくために、釧路市では「認知症サポーター養成講座」を開催しております。また、釧路地区障害老人を支える会「たんぽぽの会」が実施する絵本コンサートや講演会、研修会等にも協力をさせていただいておりますので、市民の皆様が関心を持って参加していただけることを希望いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 2) 徘徊を繰り返し保護された事例

80代 男性 アルツハイマー型認知症 要介護5

家族構成 妻(70代) 要支援2 長女(パート) 孫(社会人・高校生)

### <エピソード>

5～6年前、自転車で買物に出かけ道に迷いタクシーで帰宅。その後長女の夫が急逝したことで塞ぎ込むようになり様子がおかしいことに家族が気づく。

その後受診し、アルツハイマー型認知症と診断される。老人保健施設のディサービスを妻と一緒に利用するが、送迎車に乗り施設に近づくと嫌がり暴れるので通所を中止する。

自宅に妻という日中、ふらりと散歩に出かけ迷子を繰り返すようになる。長女は出勤前に毎日父と散歩に出かけ、外出したい要求をかなえたり、父に携帯電話を持たせたり、父が

母の制止を振り切って外出するとすぐ母が長女に連絡し、その後長女がSOSネットワークに連絡していた。長女の勤めるクリーニング店でも市内を巡回しているセールス車に無線連絡し捜索に加わった。その後父は、認知症ディサービスを利用するようになったが、ディサービスでも毎日散歩に出かけた。

7～8回ネットワークで保護された後、長女は「関係のみなさんに申し訳ない。」として自宅玄関に新式の鍵を取り付けました。その鍵を開けようと父は、毎日何時間も鍵に挑戦し開かないと知ると上着を床に叩きつけ苛立った。家族が気づくと父の人指し指と中指の爪が爪きりの必要がないほどすっかり磨り減っていた。

長女は「父を捜して車で走り回っている時、何台ものパトカーに出会うと、みんなで捜してくれていると本当に心強かった」「交番に父を引き取りに行った時、ニコニコして引き渡してくれるので、もう限界と思った在宅介護をもう少し頑張ってみようと何度も思いなおした」と語る。また、携帯電話は、毎日充電することが大変であったという。

現在、父は症状も進み自力歩行は難しくなり、ディサービスの利用で仕事を辞めた長女の介護で在宅で暮らしている。

### <今後の充実のために>

本人への支援⇒ ディサービスでは、本人が出たいとなると自由に何度でも付き合い散歩させた。外靴を脱ぐのを嫌がると、履いたまま入室させていたり、車から降りないときは車に乗せたまま食事をしていただくなど、本人に合わせたケアにつとめ、足が弱っても二人掛りでゆっくり歩くことにして車椅子の使用は限定している。

これらのケアで少しずつ落ち着き、家族も自宅で靴を履いたままいられるように工夫したり、気に入った絵本の読み聞かせをしたりと、長女と協力してケアにあたっている。

家族への支援⇒ たんぽぽの会の家庭訪問で家族の悩みをうかがった。長女さんは仕事をされているので、つどいに参加されるのは難しかったが、SOS ネットワークはとても頼りにされ、積極的に体験発表をされた。

## 2. 静岡県富士宮市の平成 22 度の取組み

### (1) 認知症高齢者の外出支援について取組み

#### a. アセスメント（ケアマネジャー・息子・地域包括支援センター）

##### 事例ケースⅡ

###### Bさん(83歳)認知症の女性の事例

ケアマネさんからの相談

市は認知症サポーターをたくさん養成しているけど...

私の認知症の困難ケースには、ぜんぜん繋がってこないんだけど...

この困難ケースって、どうにかならないかしら？



83歳女性 要介護2 認知度Ⅲ a 息子と2人暮らし

- 実家は農家。7人兄弟の一番上
- 働き者
- 運動得意
- 18歳で結婚。
- 子育てをしながら、パートをしたこともあり、孫の世話もよくしていた。
- 掃除好き
- 本人の意向に沿わないと表情が陰しくなり怒る。
- 会話が成立しづらい。



##### ケアマネが困っていること ①

###### Bさん(83歳)認知症の女性の事例

- ▶ 1日4回、往復1時間かけて、神社の掃除に行く。
- ▶ 掃除に行った事を忘れてしまい、また行ってしまう。
- ▶ 自分自身の体調管理ができない。
- ▶ 帽子を被るのを嫌う。
- ▶ 水分補給をしない。
- ▶ 自分の事を、言葉で表現ができない。
- ▶ 相手に対して、急に怒り出してしまう。
- ▶ 広い道路をよく見ずに渡ってしまう。
- ▶ 1日1回1時間のヘルパー派遣では、見守り支援が十分でない。



そっと見守ってほしい

##### ケアマネが困っていること ②

###### Bさん(83歳)認知症の女性の事例

散歩中、畑作業中の方と会話になり、自分の実家の町名を尋ねられた。  
Bさんが「それは、どっち？」と聞くと、  
その方は、Bさんのいつもの（定期）ルートではない方向を指さした。  
Bさんは、指された方向に突然歩き出してしまった。

その時は、たまたまヘルパーと一緒に歩いていたので、どうにか、定期ルートに戻すことができた。

何かの拍子にいつもの（定期）ルートから外れる心配がある。



早期発見できる方法がないか？

## b. 支援策の検討・ケア会議（別添 P P）

| Bさんのために目指す「見守り」とは・・・   |                                                                                                                      |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 日常見守り時               | <p>本人が安全に歩けること。</p> <p>家族が安心して送りだせること。</p>                                                                           |
| 2 見当たらない時<br>（早期発見の方法） | <p>家族が「あれ？いない」と思った時に、早期発見・早期対応できること。</p> <p>介護者・事業所等がいち早く状況を確認でき、必要なところ（警察・民生委員・区長から消防団）に支援を求めることができる。</p>           |
| 3 行方不明時                | <p>あらゆる市民が気にかけてくれて、情報を寄せてくれる。</p>  |

### ① 日常見守り体制の構築

| Bさんのための「見守り支援」活動                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 1 日常見守り時                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>本人が安全に歩ける。</p> <p>家族が安心して送りだせる。</p> |
| <p>(1)家族・介護者・事業者が本人のことを知る<br/>アセスメント（地図上支援マップの作成）<br/>■ケアマネがヘルパーから情報収集し、Bさんのリスクを洗い出した。<br/>①とおり道でのアクシデントが心配<br/>②とおり沿いの家に入って、草取りや片付けをしてしまう（固定の家）<br/>③道を誤って徘徊につながりかけた時がある</p>                                      |                                        |
| <p>(2)Bさんの支援体制①<br/>通り道でのアクシデントの対応<br/>ケース会議開催（息子・社協・ケアマネ・民生委員・ヘルパー・地域型・包括）<br/>■地図上支援マップの共通認識<br/>○息子の承諾（個人情報の扱い）を得て、ケアマネがチラシを作成<br/>○息子と一緒に、地図上にチェックしたポイント宅（ケア・ソ）に見守り支援を依頼！</p> <p>Bさんの支援体制②<br/>通り沿いの家への進入に対する対応・徘徊への対応<br/>いつも入ってしまう家には戸別訪問により理解を求め、それ以外の通り沿いにある家の方には、地域と連携して講座の開催を企画する。（進行中）</p> |                                        |

### 地図上支援マップ

「安心して散歩がしたい」  
皆様の優しい目と手をお貸しください

《お願い》  
金ノ宮神社へ散歩や掃除に行くのが日課になっている認知症の方がいます。散歩の途中で、体調が悪くなった時、怪我をした時、家がわからなくなってしまった時、ご自分で助けを求めたり、判断する事が出来ません。この方が、一日でも長く安心して散歩へ出かけられるように、地域の皆様の優しい目と見守りに、ご協力ください。

氏名 B さん

住所

《特徴》  
・色覚で困難  
・エプロンや制服を着ている事が多い  
・金ノ宮神社へ行くのが日課・神社内では掃除をしたり、番台を回している  
・声を掛けたり、本人の意向に合わない事があると、表情が険しくなる事がある  
・短けた事や、本人が言う事がわかりにくい事があり、返事は返り立らない時がある

《緊急連絡先》  
※体調が悪そうなお時、道に迷っている時、自宅と反対方向に歩いている時などご連絡下さい

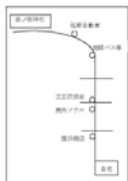
1) 携帯 ( )

2) グリーンティニー 居宅介護支援事業所  
担当ケアマネージャー 深澤久美子  
0544-25-3747  
080-5290-5259

3) 富士宮市地域包括支援センター  
0544-22-1591

4) 夢工房（ヘルパーステーション）  
0544-25-6050

5) 地域型支援センター 社会福祉協議会  
0544-22-0094





## ② 見当たらない時（直後）

| Bさんのための「見守り支援」活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>2 見当たらない時<br/>（早期発見の方法）</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 家族が「あれ？いない」と思った時に、<br>早期発見・早期対応できる。<br>介護者・事業所等がいち早く状況を確認でき、警察・民生委員・区長<br>（消防団）に支援を求めることができる。 |
| <p>(1) 息子がいち早く状況を確認できる体制づくり</p> <p>連絡名簿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■キーパーソン(ポイント宅)に理解を求め、早急に確認できるよう連絡名簿を作成中</li> </ul> <p>民生委員への支援依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■近隣の民生委員にもチラシを配布し、見当たらない時の協力を依頼した。</li> <li>■民生委員が運営している地域寄合処に通っている高齢者（Bさんとはもともと知り合い）に、支援（道をそれていた場合の声かけ）を依頼した。</li> </ul> <p>社会福祉協議会・地域型支援センターの取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■市内循環バス（宮バス）の運転手（1日8往復、Bさんの通り道を通過する）に、見守りを依頼した。</li> </ul> |                                                                                               |
| <p>(2) 早急にしかるべき機関に情報を伝えるための準備</p> <p>息子に、見当たらなくなった場合の手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①キーパーソン(民生委員を含むキーパーソン)に連絡して、Bさんの所在を確認する</li> <li>②地域の人に協力を求める(ケアマネ)</li> <li>③1時間で見当たらない場合は、区長(消防団)と警察に連絡する</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                               |



## 連絡簿（案）

### Bさんが見当たらなくなった場合は・・・

- 状況の把握  
連絡簿を使って、見守り支援者や親族等に連絡する。(家族)  
(民生児童委員から→近隣(同支部)の民生委員・名簿の中の見守り支援者等へ連絡)  
(ケアマネから→ヘルパー・地域型支援センター・包括等に連絡)
- 見守り支援者が、知り合いなど、協力してくれる人に事情を話して、一緒に探してもらう。
- 1時間して見付からない場合には、  
  - 区長（      さん宅      ）に連絡する。  
→消防団の出動
  - 警察（別添）に連絡する。(富士宮警察署生活安全課：23-0110)

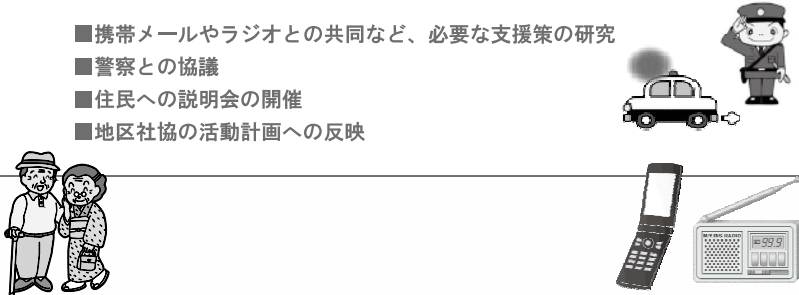
#### 連絡簿（見守り支援者）

|             |         |
|-------------|---------|
| 〇〇区〇〇民生児童委員 | 〇〇-〇〇〇〇 |
| △△区△△民生児童委員 | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 〇〇ケアマネジャー   | 〇〇-〇〇〇〇 |

|              |         |
|--------------|---------|
| 〇〇神社氏子総代〇〇氏  | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 〇〇自動車整備工場    | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 〇〇商店         | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 〇〇焼肉店        | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 地域型支援センター    | 〇〇-〇〇〇〇 |
| 富士宮市包括支援センター | 22-1591 |

### ③ 行方不明時

| Bさんのための「見守り支援」活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| <b>3 行方不明時</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | あらゆる市民が気にかけてくれて、<br>情報を寄せてくれる体制 |
| <p><b>あらゆる市民が気にかけてくれて、情報を寄せてくれるための環境整備</b></p> <p>各関係団体（タクシー協会・コンビニなど）への意識調査（アンケート及びヒアリング）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○広報無線にどれだけ意識しているか？</li><li>○広報無線を聞いた後に、高齢者を見かけて気になるか？</li><li>○広報無線以外にどのような情報伝達に効果があるか？      など</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>■携帯メールやラジオとの共同など、必要な支援策の研究</li><li>■警察との協議</li><li>■住民への説明会の開催</li><li>■地区社協の活動計画への反映</li></ul> |                                 |



#### c. 見守り宅を訪問して定期的な検証

見守り宅はみんな毎日見守っていた。（その日の服装もしっかり答えられる）

## （２）行方不明者ゼロ作戦の静岡セミナーに参加

## （３）マニュアルの作成（２月完成予定）

徘徊する高齢者のアセスメントと見当たらなくなった時の初動マニュアルを作成して、家族・介護保険事業者・民生委員に啓発する。

## （４）普及啓発

（３）の啓発用チラシを作成して事業所・家族・民生委員に啓発する。

（チラシ作成中    ３月完成予定）

## （５）市民調査（実施中）

同報無線がどこまで行き届いているかなど、市民の意識調査を実施中（対象：サポーター、家族、事業所）

## （６）課 題（平成 22 年度の反省）

- ① 行方不明者が出た場合、地域の消防団が動くことになるが、消防団への出動要請に対する、警察と消防本部の認識が違う。

- ② 同報無線（放送）が流れた時に、どのくらいの市民が真剣に聞いている（行方不明者の服装をどのくらいの方が答えられるかなど）かなどがわからない。
- ③ 警察が搜索する場合でも、多くて4人程度しか出動しない。地域の協力が欠かせない。
- ④ 消防団が積極的に動く地域（区長が積極的）と動かない地域の差が激しい。
- ⑤ 消防団の広域連携ができていない地域がある。（富士根地域は消防団が連携して広域で動くが・・・）

## （2）23年度の取組み

### 1）普及啓発

- ① マニュアル（アセスメントシート、初動マニュアル）の普及啓発  
介護保険事業者、民生委員、消防団、区長、家族会、家族介護教室
- ② 事例検討会の開催（徘徊高齢者日常見守り編）  
ケアマネージャー、民生委員

### 2）行方不明者の対応

- ① アンケート結果の分析 ⇒ 市民への伝達手段の検討（携帯など）
- ② 包括ケア会議の立上げ  
警察、消防本部、消防団、区長、事業者、民生委員、家族会の代表者による事例検討ができる会議を立ち上げる。  
＊ 警察の徘徊高齢者を搜索したケースに関する詳細資料が必要  
（特にこれまでの死亡者・行方不明者）
- ③ 地域型支援センターの体制強化についての検討

### 3）徘徊高齢者見守りセミナーの開催

上記1）、2）の進捗（地域への浸透具合）を見ながら、よいタイミングでセミナーを実施する。



### 3. 大牟田市セミナー資料

## ほっと安心(徘徊)ネットワーク (高齢者等SOSネットワークを含む)

1. 認知症の人と家族を支え、見守る地域の意識を高め認知症の理解を促進していく
2. 徘徊高齢者を隣近所、地域ぐるみ、多職種協働により可能な限り、声かけ、見守り、保護していく実効性の高いしくみの充実
3. 認知症になっても安心して暮らせるために「徘徊＝ノー」ではなく、「安心して徘徊できる町」を目指していく

## ほっと・安心(徘徊)ネットワーク (高齢者等SOSネットワークを含む)

### ＜大牟田市高齢者等SOSネットワーク＞

- ・ 大牟田警察署
- ・ 大牟田消防署:地域安全安心ネット
- ・ 福岡県土整備事務所
- ・ 大牟田市役所、その他(タクシー協会、コンビニ、石油組合、大牟田駅など)

### ＜地域ネットワーク＞

はやめ南人情ネットワーク  
明治校区 倉永校区  
銀水校区 中友校区  
駿馬北校区 白川校区  
みなと校区 手鎌校区....

### ＜大牟田市役所＞

地域包括支援センター  
介護サービス事業者  
介護支援専門員連絡協議会  
大牟田社会福祉協議会  
介護予防相談センター  
民生委員児童委員  
まちかど相談薬局

協働

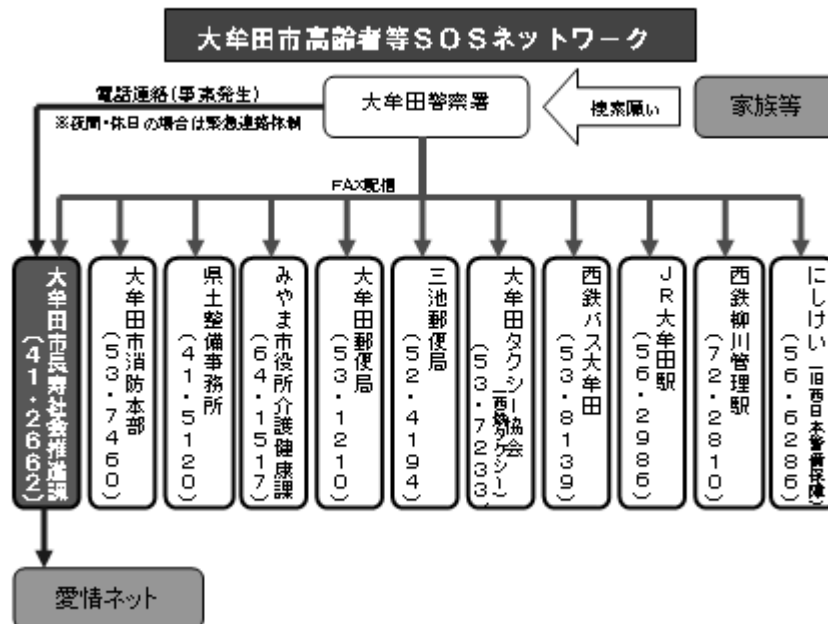
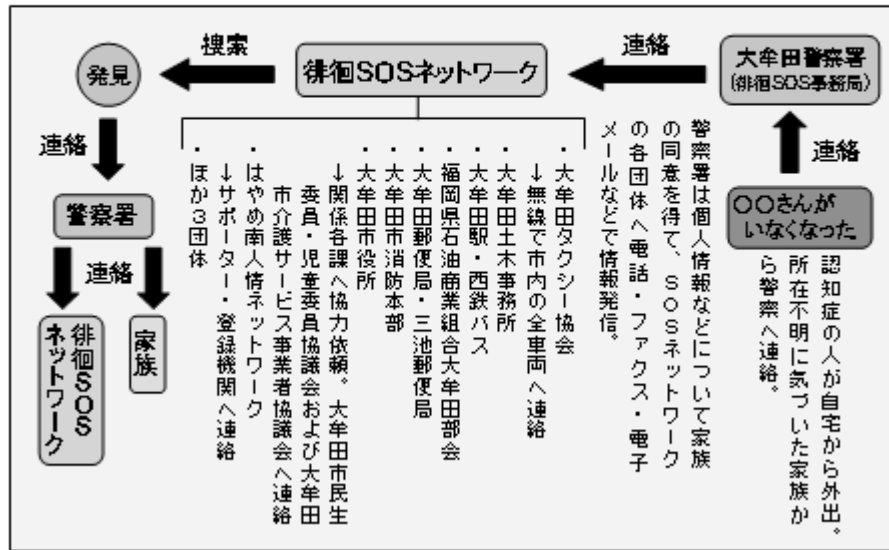
### ＜こどもみまもり隊＞

### ＜こころみまもり隊＞

＝認知症市民サポーター

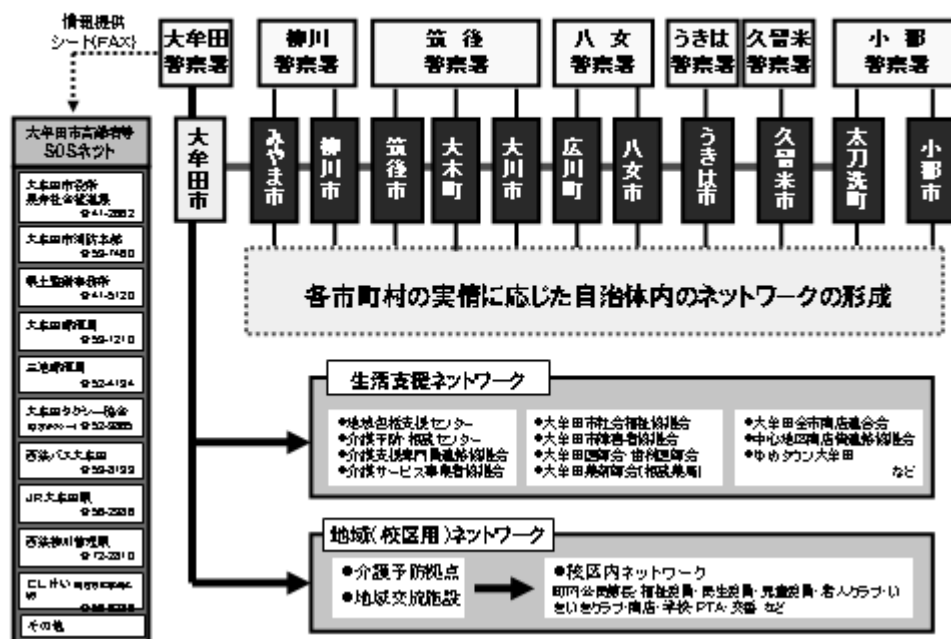
### ＜筑後ほっと安心ネット＞へ (仮称)

# 大牟田市高齢者等SOSネットワーク





# 筑後地域高齢者等SOSネットワーク図(案)



## 4 DVDメニューと使用方法

### <DVDメニュー>

認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦の構築に向けた調査研究事業

- ☐徘徊 SOS ネットワークとは ..... 10 分 43 秒  
(ネットワークの必要性を考える)
- ☐徘徊 SOS ネットワーク事例 ..... 3 分 21 秒  
(神奈川県茅ヶ崎市の事例)
- ☐ネットワークへの参加と徘徊模擬訓練 ..... 6 分 29 秒  
(福岡県大牟田市の実践)
- ☐全部見る ..... 20 分 33 秒
  
- ☐声のかけ方ワンポイント ..... 3 分 46 秒  
(大牟田市ホームページより)
  
- ☐付録 群馬県沼田市模擬徘徊訓練の様態 ..... 9 分 42 秒

### <使用方法>

- ☐徘徊 SOS ネットワークとは  
(ネットワークの必要性を考える)

これからネットワークを構築していこうとしている時にネットワークの必要性和概略を解りやすく解説しているの、セミナーの冒頭で活用することにより共通認識を得ることができる。

- ☐徘徊 SOS ネットワーク事例  
(神奈川県茅ヶ崎市の事例)

神奈川県茅ヶ崎市のネットワーク事例を紹介、社会福祉法人がネットワークの実務を担当し、発見した後の一時預かりも行っている。

- ☐ネットワークへの参加と徘徊模擬訓練  
(福岡県大牟田市の実践)

ネットワークの継続をテーマに、福岡県大牟田市の取り組みを紹介しながら、徘徊模擬訓練も含めて継続していくために必要なことを考える。

- ☐声のかけ方ワンポイント  
(大牟田市ホームページより)

認知症の人への声のかけ方を学ぶ

- ☐付録 群馬県沼田市模擬徘徊訓練の様態

群馬県沼田市の模擬徘徊訓練の様態を紹介、模擬訓練の進め方を学ぶ。

平成22度 厚生労働省老人保健健康増進等事業

**『 認知症高齢者の徘徊行方不明者ゼロ作戦  
の構築に向けた調査研究事業 』 報告書**

平成23年 3 月

発行：NPOシルバー総合研究所  
〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-5-3F  
TEL：03-5425-2383 FAX: 03-5405-1184  
Eメール：info@silver-soken.com  
ホームページ： <http://www.silver-soken.com>